新和歌類句集五

第五句
五代集
從子更ヘ

特別
イ4
3163
22(5)

貴
14
3163
22(4)

新和歌類句集

よ

新千慶賀
もゝ代と祈るさこそ山乃ゝ上にけふ
ゝ人ゝ

新拾賀
もゝ代ゝ世ゝてゝ鏡ゝ乃ゝ影に乃ゝ
基俊

風上
さゝ竹乃ゝ
よゝゝゝゝ乃ゝ園ゝ乃ゝ宮に乃ゝ乃ゝ

新拾雜上
世ゝ乃ゝ
よゝゝゝゝ乃ゝ
仮西園寺入道
おゝゝ

新続古三
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
徽安門院
小宰相

新拾雜上
明方に
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
法寺関白

風上
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

新千 恋二
人もねぬ
さとのみ
思ひよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新拾 秋下
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新拾 衣
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彩千 衣
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彩拾 鶏
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新後拾 雑上
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新拾 冬
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

風 恋四
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新千 衣傷
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彩後拾 秋上
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新千 慶賀
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彩後拾 雑中
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

日 賀
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新千 雑上
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新拾 賀
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新後拾 秋下
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

風 賀
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彩後拾 冬
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

風 恋三
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

新千 雑中
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

日 恋五
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

日 恋四
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彩後拾 雑秋
秋はよ
なれ人の
薄よりて
美と行
美さしら
美濃して
大さの
光時
春の夜
かすみ

彰千秋上
新拾神
彰抄新上
新千新上
同
同新下
同
彰抄新上
同別
彰拾秋下
彰続古恋二
同夏

いつかしら世をわたりし九重の姫の文井にながす月新　為通卿
なるてん世をわたり位高きに沿れる松の姫風　信濃の御
今はとて世にる人をたゝる物少よ年の老そ物の比　為大納言
あすをたのぬ世よりうの河まてゝ子の姫とらみて今さ　宰相中将
かてゝ世にすゝ姫とうしきゝ昔ゝ姫ゝ　女房の院
世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　甲斐
もしてもならうの水の河ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ならうの水の河ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
水の河ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
あさ者に世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
たゝ世ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
朝夕よ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
六月毎よ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿

彰抄秋下
新続古新下
新抄新中
同恋二
同新下
新拾恋四
彰抄恋一
彰続古恋三
同恋四
同
新千恋五
同新中

姫世の世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
れ世の世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝこゝ孫ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
よゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝゝゝゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿
ゝ世にたゝ人をあの衣川かゝる雪の姫紙少れ　為人卿

新千 恋一
新後古 雑二
月 恋三
新拾 賀
新後拾 雑春
月 雑秋
新後拾 秋下
月 雑上
風 雑下
新後拾 秋下
新千 雑下
新拾 雑中
風 秋中

うれかうと　なくとを　なふくとは　ものかなし　ひとをとは　なにはめ　ひとをとは　なにはめ　ひとをとは　なにはめ

彩後拾度
かきりなく
よもすがら月やまうみけるん　校注細て志元
風悪二
なりさのよもすがらなるこゑきぬるかな　太上天皇
彩後拾歌下
ほれてハ
よもすがらなれなとてもあかつぬ物と　後定國師
彩後拾歌上
秋セ
よもすがらの月やうつしてけるかな　寂蓮法師
新後古歌下
ひさかた
よ川のうへ荒てすみ月をよみて　秋文院人々
新千雑上
う舟
よ海のなかく井入てはるかなる物をかな　後鳥羽院
彩千交
う舟こく
よ川の浪れ荒けてうつるそしかりたれ　後安門院
同歌中
かすりかき
よ川乃うへ荒まてそ思とうれなたつを　法華寺禅
同歌中
風
よ川の秋れ下をに心の秋とをしむもとうれ　前大僧正藤
新拾秋上
女郎花
よれぬ度とそ秋のあるかの風よ行のひとん　二条院讃岐
新千歌中
ひさ人
ちにうぬ行のそ物をうれてとをきまうれ　二条院讃岐
彩拾歌中
ふ月
うにうるまつ人きてつまちをやまとをあて　為綱女氏

新千尺
ひさ人きて
代こよをあや山河れかれ川をしれ法のうん　法眼教源
日
ちにうぬ
代こに清人て学乃うにうるこをかれあう　仮題公房
日歌上
氣行乃
代こにうてて志て我行うにうるを乃花川　大江匡
日歌中
氣かな
代こにせきこまて泣とやうにうを流と今さうん　前大僧正慈鎮
彩拾尺
若河乃
代こへてもみちらの川のふ乃水心とうをて　為綱女後鳥
風歌下
まてて
代ことをよてうにつ人をうをとをいうをとう人
彩千尺
今を義
代けうつうをうをにうを奥ハ神やうらん　為家卿女飛鳥
同交
ひさまて
代乃奥ハ成とてかうこ穴月を被よ花乃　為家卿女飛鳥
彩後古悪五
なのハ
代こ乃奥ハ成のうきて花乃うん　為道卿女
新千悪五
いふうに
代こにうをうをうをにうをてうをうん　為道卿女
日交
ちにうぬ
代このなかをとうをうをうをうをうを新乃梅　法華寺尼
彩拾度
宇ふや又
代このなかをとうをうをうをうをうん　九条道家
新後古歌上
四方乃
代このなかをとうをうをうをうをうん　今上皇后

新後古歌
廣澤乃
ちくと
日
新千
秋上
任
日
天
契
彩拾
新中
悪
彩千
忘二
つ
風
悪三
新千
長傷
彩千
長傷
新後拾
尺
新千
冬
彩拾
新中
美作乃

代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ
代々ゝ

なれて世にさ神もうをつめをん　後信心　道我
むつくと世にそ我ゆめ行てこゝろ　永福門院　内侍
昔のこゝろ三つ一やそ〻（中略）の月　御製
のむつ代の糸よりこまみく姫乃白髪　爾る人乃　為尊親王乃
ゝのむつ代とやみゆ美ゆて　法下法意
ゝのむつ代とやからこまてゝ悪こ事こゝ美　儀子内親王
ゝのむつ代とのむこひと男こゝ人うかて行てこゝ　為尊親王大武
ゝのむつ代とのむつ代ゝ世こゝけこゝ行ゝゝ　乃遠行乃　女
ゝのむつ代とのむこひこうこゝ行ゝゝ　大納言家女
ゝのむつ代とのこゝ行ゝゝ　信生法師
ゝのあこゝこゝ者まこゝぬ月とみこゝ　御製
ゝのあこゝこゝ我乃とかこゝ分和こゝ世法　御製
ゝ代のこゝ行こゝつゝ人こゝぬ思こゝ法一ぬこゝ　正信法師

風
悪二
彩拾
新中
月
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ

ゝこゝて人ゝ法宗法こゝ月みこゝ法こゝ　源和氏
こゝ行こゝ者こゝ行ゝ行こゝ行こゝ行こゝ　妙法法師
ゝこゝ行こゝ者こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　永福門院　四侍
ゝこゝ行こゝ者こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　氏乃乃定
こゝ法こゝ法こゝ法こゝ法こゝ法こゝ法　氏乃乃定
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ梅こゝ行こゝ行こゝ　前大納言為世
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　人丸
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ月こゝ行こゝ行こゝ　人丸
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ小こゝ行こゝ行こゝ　法信氏久
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　前参議実名
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ月日こゝ行こゝ行こゝ　後八条入乃　四乃乃
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　為信乃　道意寺
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　法下乃頃
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　飛鳥井雅経
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ　飛鳥井雅経

新後古 恋五
新拾 恋二
新後古 羇
同 雜上
新拾 恋二
同 秋下
新後拾 恋下
風 雜中
新後拾 秋上
新後古 恋二
新後拾 恋四
同 恋二

新拾 雜上
新後古 秋
新千 冬
新後古 文
新拾 尺
新千 雜上
新後拾 冬
新千 恋三
同 恋一
新後拾 恋三
新千 冬

新続古 義
いとまをしてハ
ゆくすえもなき世をハ人毎
為尋法師

風 雜下
空をしよ
ゆくすえもあられぬ世をハ人ごとに
伊勢

風 雜下
夜うち
ゆくすえもなき人のなげきをとゝのへて
民部卿

新続古 恋一
うしなひ
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
中務卿宮

新拾 恋一
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
宮内卿

新千 冬
ふかき
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
太宰帥

日 天
六月
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
僧正

風 懐
結ひ
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
前大納言為家

新拾 雜下
あるとハ
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
仁和寺宮

新続古 雜上
秋ハ
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
頭弁

新千 冬
さとれ
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
従二位家隆

新拾 雜
うち
ゆくすえもなきハ世の秋をとて
法師

新拾 神
神
世ハ
世をの
世ハ
世ハ
世ハ

彩千 慶安
おさまれる
世にてはさとなり
世にてはさとなり
世にてはさとなり

新千 物下
山川の
よきしの秋の夜の月をまて
衣うち
後拾遺 恵慶法師

新後拾 秋下
千鳥なく
なきぬ酒風山をよこ
ぬとも張れ秋さめに
後拾遺 隆信朝臣

新千 恋上
八重とすす
きなあよ人ゆ
酒風のくすすきをれて
恵慶法師

物語 冬
舟の夜
きぬ
なるこの音
物語 伊勢物

新拾遺 冬
おりて
物川か
うこ人をとゝ
ん異伊勢風
後嵯峨院御歌

新千 雜中
物川か
うこいつ
ふるの
ゆ恨をそ
新勅撰 雜中

風 恋三
思ふ
たゝ
人の心をとゝ
永縁法師

新拾 恋上
れ世
梅の
ひ
貞慶法師

風 夏
きせ
花の
風
明の月
西行法師

物千 冬
冬こす
ゝけ
雪
月
二条院讃岐

風 恋上
みゝ
山
月
藤原為家

新後撰 夏
新千 恋上
新拾 恋下
新後拾 雜中
風 恋中
新後拾 雜中
新千 雜上
風 雜下
新後拾 恋二
新後拾 雜下
新千 恋五
風 雜中
新拾 雜上

新後撰
月の
月
みゝ
月
西行法師

みゝ
ゝ
ゝ

新後拾秋
なつかしの
ものかな冬こそといて咲べき花とこゝろえん　前右兵衛督藤原四

新千慶賀
あさみどり
ゆきにまくらの千代ぞ経
大納言通具

風冬
ふれて
ものかなとこの葉こそおりて度ごとに
式子内親王

新千秋下
あきの月
あらはれ見へきにわかるゝ雁やとの朝の羽音
宮内卿入道前右兵衛督藤原朝臣

新後拾秋上
明ぬまて
ふきかゝりて花にうつるこゝろ
藤原為家朝臣

風新下
あつれぬる
ものかなさかりなれとなを物思ふ秋
賀茂重保

新後拾雜下
新きた
ゆく秋の月ぞとてさいてはあれ
大納言通具

新千恋一
ものこそ
ときこゆ時雨ふる中に立うれしなる
前大納言家教

新後拾冬
あらの末に
ゆくへこまぬいなやうら川波
惟明親王

新千天
ふる浪し
ゆくへ方にてのりの人となふ秋ぞとおりよ
前大僧正慈円

風新中
風をふく
ゆくへ浪にいとゝあはれとなこそ
後人不知

新千雜下
ふる郷
ゆくへ波と白めよ花ちさかりとしらぬ山ぞ
俊成卿女

新後拾恋四
なとてかく
ゆくへ浪ぞ舟はこゝろ
仮名序作者紀友則

同雜上
ふる郷
ゆくへ波ぞ
仮名序作者紀貫之

新千恋一
おきて川波
ゆくたゝ秋の初ぬ人をこそ
菅原孝標

新後拾恋
ものこそ
ゆくへ波ぞ
仮名序作者紀淑望

同雜上
おきて川波
ゆくへ波ぞ
檢校紀乃兼

新後拾雜下
ものかな
ゆくへ
[illegible]

二百首

二百首

た

新拾神祇
たちうとをせうせハ天ぬ[illegible]　阿保経覚

風新中
若に一とら日新て若をかすとも松ぬ久風　藤原為家

新後拾新長
文明寺　源重之

新千新中
いろ[illegible]　信多法師

月新上
河あれハ　若とも紫うらいとなく人とをとてや　紀ノ貫之御歌

月春上
なれと又　若とをとて元ぬ武よあ人をとれと寄ぬ　前関白

風文
山ぬや　若とのの又月毎ぬ世ハ新まて立ぬ[illegible]　後鳥羽院

新拾新上
好ぬ分　若ぬ[illegible]とを思や新鶯風のをや吹てうぬん　僧正遍昭

同春上
うぬとの　若ぬ[illegible]ぬ外山ぬ[illegible]ぬ[illegible]　大納言師実

風冬
馬ぬ分　若ぬ[illegible]ぬに雪ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬん　紀ノ貫之御歌

風新中
人をぬ　若ぬ[illegible]ぬの[illegible]ぬ[illegible]ぬ山　後二条師家

新後拾恋二
うぬ[illegible]　若ぬ小川ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　源重之

新後拾新上
若ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　信正宮伊

月新上
松やぬ　若ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ人ぬの　藤原知家卿

風新中
中ぬ[illegible]　若ぬ新ぬの為ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　進士[illegible]

風冬
ぬ[illegible]ぬし　若ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　紀雲[illegible]

新後拾恋一
冬ぬ[illegible]　若ぬ下水ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　走馬左衛[illegible]

月恋一
ぬ[illegible]　たぬ思ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　後京極[illegible]

新後拾尺
ぬ[illegible]ぬ[illegible]　たぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　源兼[illegible]

新拾恋二
ぬ[illegible]ぬ[illegible]　たぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　万[illegible]門院

新後拾恋三
ぬ[illegible]ぬ[illegible]　たぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　源頼康

風文
ぬ[illegible]　ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　後[illegible]教

ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　在近大将通[illegible]

新拾 雜上
なちかて
色せをや
新千 秋上
さくに又
新拾 哀
たゝい衣
新後古 雜
新千 雜列
おきつに
新拾 雜中
又ふを
日 文
交ふを
新後古 恋上
沖のふ
新拾 文
日 恋下
日にて
風 雜
和歌

なら神さんかけ
たらすまてる月
ならをかけて
ならすれとも
ならわるも
ならつるも月の人の
ならつるも月の
ならつるもてきこの
ならつるもてきこの
ならつるもてきこの

風雅上
一ほとゝぎす
たそてはなそめて名わ時雨にかすみ山ぬ初雪
按ずに成國

新後古歌五
如帝釋
たゝ神ぬそ
たゝてをし梅の花立ち初ぬ
梅の香を
侍従為教

同
ちりやすく
たゝ川ぬ
なかさせて
たゝ
ぬ
ぬ
ぬ

新千 去上
まさ消ぬ
たゝのこ雪をうけて庭のうゑかすみて月ぞ山
仮西園寺公宗卿

新拾 秋下
さ夜衣
たゝねざめとうちてしなれ美とおもふ人
仮三条西内大臣

新千 秋上
うかりけり
たゝかつて夕ぞ物はかなみさにつゝあはれ人こゝろ
仮藤原為家卿

新続古 雑中
物おもふ
たゝかみさにつゝあはれ人こゝろ
仮藤原為家卿

新続古 恋四
かりの出ハ
たゝ涙ぞ人の恋ひ月ぞ物ゝこゝハ
仮藤原為家卿

風 恋五
あゝ恋ひ
たゝうゝ足にかゝるゝ人ぞ
仮藤原為家卿

新続古 雑中
あゝ月ぞ
たゝくゝれつゝてつゝ雲の山をきなれて
仮藤原為家卿

風 賀
くゝもとの
たゝよ代に出て月やを千代のかゝゝ成ぬ
藤原定家

新続古 恋四
かゝゝや
たゝよ代のつゝみて千代の中ぞとゝ
藤原定家

新拾 恋
高砂や
たゝよ代の山にかゝりて月ぞ
仮後醍醐院

日 恋一
かゝゝや
たゝ月の山にかゝりて月ぞ
仮三条西内大臣

新続古 去下
雪井の
たゝ月の山にかゝりて月ぞ
仮藤原為家卿

新千 秋下
かゝゝや
たゝ月ぞ明てあゝ月ぞ
藤原雅経

日 冬
明てかゝ
たゝ月ぞ明てあゝ月ぞ
仮藤原為家卿

新続古 恋五
さてゝ
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

同 恋四
かゝ月ぞ
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

新千 文
みかゝに
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

新続古 去上
君とて
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

新拾 天
雪とも
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

新千 慶賀
花乃さゝ
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

新拾 去下
みゝ
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

風 雑中
秋ぞ
たゝ心ぞ吹ゝに我ぞ
仮藤原為家卿

風 文
月ぞ
たゝ月ぞ明てあゝ月ぞ
太上天皇

風 秋中
物風
たゝ月ぞ明てあゝ月ぞ
二条院讃岐

彩後拾 雜上
新後拾 秋下
同 文
新千 恋四
同 恋一
彩拾 雜中
新千 羇
風 雜中
新拾 雜上
新後拾 恋四
彩拾 六二
彩後拾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彩拾 秋上
たちこめて
彩千 雑中
雲かゝる
彩後拾 冬
山のとふ
彩拾 秋上
とはつる
彩千 恋五
はるの
月 恋三
なのあと
彩後拾 雑長
うらさへ
風 恋四
初雁の
彩拾 恋二
我恋を
風 恋四
水鶏ふ
彩拾 恋三
枝はたを
彩後拾 夏
我たゆ

たちこめて
たちこめて
たちこめて
たちこめて
たちこめて
たつれなれ
たつてくと
たつ思ひの
たつ後をせ
たつを水鶏
たつを水鶏

雲かゝる
雲かゝる
雲かゝる

新拾遺
新後古
彩千
恋三
彩拾恋
雜上
彩後古
雜下
風
雜下
風
恋二
風
恋四
彩後古
新拾
風
雜上
彩拾恋

たゝせしやたく一ふの新ゐまちてけさうを津てを
たく一ふさかれて平られ月をまちれて
たく一みちにの拾ゆかれまちまして拾てのき
たゝとの月へちさゝ月のつき稀なけるん
なとよてまして拾かれつてふのさきやをん
なとふうこん伊勢ゆまとの月ゆをりの人てかれい
なとふうこん人て拾恋の月ゆをふる新
なとひふこんつれのてふ心をきゝハれてへよ
なとにつをふれのとつを也の森れしゆ夏のを
なとしゝてをたゝ若ゆれふにのふん
なとてたてなあをん心をあふる言れ時なの
なとふをふてまして新ゐまちれたゆ拾ふん

世を入ゑ分
四方長
入ゑ高砂を
住助
はを沙製
津平国々
拾ゆ住院
御製
宗澄院御方
拾恋御下公家
中納言定家
拾恋院御製
平氏村
拾恋御下定家
長生殿内
大臣

新拾
養
同
雜中
新千
雜中
彩拾
秋上
彩拾恋
彩拾
恋二
新後古
秋上
風
秋上
彩拾
雜上
新千
春下
彩拾
羇
彩拾
恋一

ゆをはれ
みをかの
あれをふ
あれをふ
あれをふ

彩抄 雜上
さてとは
雅経卿 信人[illegible]加

鳳 賀
あかなくに
雅経卿 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

新後古 恋四
いふもをの立乃計ハたゝ一もゝみかゝれ松まつ乃ゝ
仮宮入内 加茂斎宮女

新千 恋四
水乃ゝ立乃ゝとゝ堅ゝ
仮殿明院御製

月 恋二
わか海よ立らん浦のあさなゝゝ
後人右和

月 冬
ゝゝ衣立西ゝ
仮殿明院御製

新後古 恋四
ゝ乃ゝ立事やゝ
加茂深志定

新拾 恋三
う乃ゝ立あゝ
拾かい新 定覚

新千 恋一
あゝ立みゝ
人丸

新後古 秋上
ゝ月ハ立らゝ
仮後京尹

月 雜
旅ゝ立ゝ
拾遺 紀貫之

新後古 歌
あ乃ゝ立日
加茂新雅信

月 春上
春ゝ立
従二位雅家

月 春上
ゝ立
大僧正行弁

風 尺
ゝ立

新後古 恋五
かゝ
仮宮入内 加茂斎宮女

風 冬
みゝ入の
仮殿明院御製

新拾 冬
潮かゝ
後人右和

月 春上
春ゝ
仮後京尹

新千 春下
春かゝ
拾遺 紀貫之

新拾 夏
ゝ中の
仮後京尹

月 春下
ゝ
仮殿明院御製

新後拾 春上
春かゝ
後人右和

風 春中
山乃ゝ
拾遺 紀貫之

風 尺
ゝ
新後拾 神

玉津島
前大僧正俊

新千 秋上
わゝ
大僧正行弁

新千春下
たしかに山の桜花ぬきあへぬ風そなれ　光明峯寺入道前関白太政大臣
新後拾春下
たしかこそたちてあるめれ小世やつん　参議雅経
風
さいはとて人会をよふきくれはてとそ
雅
たのしへ今も見人のうつろはぬ世をいれ　永福門院
風
恋三
たのしの月やいとはれ　源重之女
風
秋上
たのしの月やいとはれ　後人丸和
新後拾
雅上
たのしの月やいとはれ　平忠度朝臣
風
天
たのしの月やいとはれ　藤四郎実
新後拾
恋三
たのしの月やいとはれ　新宰相
風
雅下
たのしの人や見つん　参議雅経
新後拾
秋下
たのしの人や見つん　昭訓門院
風
恋四
たのしの人や見つん　宋清花園
新拾
天

新後拾
恋三
たのしの月やいとはれ　法中光為
新千
夏
五月雨の
たのしの月やいとはれ　前摂政信輔
新後拾
恋四
たのしの月やいとはれ　大江成重
風
恋一
たのしの月やいとはれ　西宮前左大臣
新後拾
立三
たのしの月やいとはれ　中院内大臣
新拾
恋三
たのしの月やいとはれ　源中納言
新後拾
恋二
たのしの月やいとはれ　源兼氏
新千
神
たのしの月やいとはれ　藤原為氏
新後拾
恋二
たのしの月やいとはれ　藤原為道卿
新後拾
天
たのしの月やいとはれ　藤原長実
新拾
恋三
たのしの月やいとはれ　権律師静尊
新後拾
恋四
たのしの月やいとはれ　源俊頼朝臣
たのしの月やいとはれ　橘人丸和

新後拾恋四
新千恋二
同
交
新拾恋五
同
恋三
風
恋三
新千
恋一
風
恋三
彩後拾
恋三
新後古
恋三
彩千
恋三
風
恋一

望月の
てらしく
ちりたし
たるみね
たのまれぬ
たのまれぬ
たのまれぬ

風 恋七
新千 雑上
彩抬 恋二
彩後古 雑上
彩千 神
風 神
彩抬 恋二
風 恋三
風 雑下
風 恋二
彩抬 恋二
彩抬 雑中

てゝこそ
たのゝとわすれてなゝはうれしけれ　君をこそ
たのゝとかまくらの　恋のなやみよりはなれぬ
たのゝとかまくらの　恋のなやみよりはなれぬ
たのゝとかまくらの　恋のなやみよりはなれぬ

風
交

早苗うゑ
田面にはのあさみどりなる山風を
前大僧正定
雲くゝる
田面にはまよ山をそてつかぜつくあれ
院御方

風
秋下

霧こめて
曇にはまの山のくに月らうて燈をかゝ
傳平國助

彩拾抄
秋下

彩後古
長上

多々香を
ゆくらゆくらとみて折ふしの梅にはる
今上天皇

彩千
志三

ゆくへ
ゆくらゆくらへのあるなかてゆくさう
小行長

彩拾
冬

散
ゆくらゆくらいやはんらとへて雪とふるそ松の白
仮山本方
左方

月
交

れのさ
ゆくらゆくらいのゝとまるれ月みてとまるる
仮西園寺
前左大臣

彩後古
志三

てゝさの
ゆくらゆくらいまてやかれへさゝゝ被のそ明の月
太上天皇

彩千
志二

ゆま人の
ゆくゝとの燈のゝくうゝるゝとゝなのん
愛知院
為氏

月
秋上

なるけ
玉にゝゝうん燈のゝくゝ美楽ゝゝ次しゝゝ居
前大僧正
為家卿

月
交

秋いろ
玉ゝゝみゝゝ水ゝゝ紅ゝゝの浪ゝゝゝゝゝ月
仮冷泉為
御製

新後拾
恋一

ゝゝゝ
玉ゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
三条長房

新後古
冬

風さむ
玉ゝゝゝけて流れのゝあさゝゝ美にゝゝゝあれれ
左大将公名

彩拾抄
秋下

みゝく紅
玉ゝゝきゝみゝ和ゝ流ゝゝゝゝゝゝゝゝ
後人不知

新千
志二

ゝゝ川
玉ゝゝゝゝゝけゝゝ思ゝゝゝゝゝゝゝゝ
華山院燈
左大臣

彩拾抄
長下

流れゝの
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
皇太后宮大夫
後深草院

新後古
秋上

水ゝ頼山
玉ゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
摂津親鸞

彩拾
秋上

遠ゝ乃
玉ゝゝゝゝ池ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仮後伏見院
御製

新後古
長上

ゝゝさゝ
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月
撰者為兼
小事記

彩拾
賀

ゝゝゝ
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
後嵯峨院
御製

新後古
恋四

ゝゝゝの
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
摂津親鸞

月
祝上

面ゝて
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
紀伊法師

彩後拾
雜下

ゝゝ来ゝ
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宗尊院御製

月
天

昔ゝ庭
玉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
左兵衛督
伊服部東

風雪上　新千恋三　同秋上　風祝　新拾賀　彩千雪上　彩拾恋五　彩後古雜中　風交　彩拾祝　風雪上　彩拾神祇

新乃梅ハ　色花ちるとなり海てのゆきとなる風よ　前大納言家氏
色花のなみ花とそわかれて後のかをる風　前大納言実教
うたゝ祢の　色花さしも燃風よ変てゆくて月をみる哉　平宣時朝臣
めさしけさ　玉てゆくの白雲よ三月校もてぬさ掌て行と　前信濃守藤
玉松ゆくやとゝ色と変ゆくしよかゝ雪へ雨　校入道前内大臣
玉海く白に風ゆくゝ雲ゆくれ　前中納言実家
玉まく葛の下葉やゝ人ゆくゝ流れ　平親治女妹
玉はゆ雲の代ゝまて心をせてをゆ　入道一品親王　宗助
玉はのゝに影雪とゆゝ白　前関白左大臣基
玉て花にやゝゝ立の雪の式とゝ　洞院四年
玉ゝ度よしゝ花の雪とゝ初雪　白河院御製
玉りゝ人へゝ出ゝ花とゝ神とゝん　伏西園寺入道前太政大臣

あゝ人乃　玉とかゝて袖乃ゝ流れ花ゝ　遊子内親王
とゝ人ゝ　玉とゝ花ゝ川ゝ流れ　伏龍胡院御製
山すゝ　竹ゝ川ゝ川ゝ流れて　洞院一条
日ゝ新て　竹ゝ雪ゝ川ゝ雪ゝ雪ゝ　祝子内親王
雪ゝ　竹の葉ゝ月ゝ雪ゝ　今上御方
ゝて　竹の葉の月ゝ月ゝ月ゝ　前参議藤原
ゝ人ゝ　竹のゝ雪ゝ月ゝ雪ゝ　伏見院御方内御
今年ハ　竹乃ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　宗久法師
ゝは　竹乃ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　参議藤原知
星ゝて　竹乃ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　西院
新ゝ　竹のゝ雪ゝ雪ゝ風ゝ　小宰相
さゝ　竹のゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　二品法親王
ゝ　竹のゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　法印浄弁

新後古恋五　新千雜上　風冬　風交　風冬　風秋中　彩千秋上　新拾雜上　彩後拾雜上　彩千雜中　同雜中　同雜中

新後拾 雜下
きてこそハ
作乃そのかの来ぬめ物ぬ所ぬ一のそこそこそこん 後人 知

新拾 恋五
そせこや
作乃まそ所ぬそこ書ぬ所ぬ一ぬ所ぬ所ぬけきを 後鳥羽院御製

風 雜中
山ぬまや
作のあるさに入日あらて林乃ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ 後鳥羽院御製

風 秋中
吹ぬくか
作乃あるさに月みてそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこ 後子内親王

風 雜中
風をそふ
作乃ぬ所ぬ乃ぬ乃ぬ乃

新後古 忠五
中くゝ
絶わり江のわたれば世にもしらぬ人ゝこそわび
金葉川芳 大江匡房

彩千 慶賀
白川の
絶ぬなりと聞ては昔代にきゝもならはしれ
二条院讃岐 受領

彩拾 忠五
うゑしゝ
絶ぬ涙よそのうつて交るとも袖とゝめをや
素覆赤染衛門 家集

新千 恋又
なみ川
絶ぬ思の淵はあれにきをいりぬなくもしらん
後拾遊 法師

新拾 恋一
ゆ
絶ぬ嶺の行末ふかみ雲ゝ分へぬるん
金葉二条院讃岐 歌集

新後古 恋一
明ぬ秋ふ
絶ぬ嶺と思きゝわの下をえれ思ひあるせゝり
山階入道内大臣

新千 秋上
袖わるゝ
絶ぬ嶺ゝ思のゝかゝるゝ好きゝ桜
伊勢大輔 家集

新拾 恋下
ゝ
絶ぬ山ゝ桜ゝ思ゝ好きゝ桜
自河院 家集

彩後古 忠又
かりそめ
絶ぬとゝ人や恨へ成ゝ思ゝ
後拾 和泉

風 恋三
あまゝ
絶ぬくゝと月はみくゝ思ゝ
後拾 大納言

風 尺
いゝ
絶ぬ新ハ山けゝ思ゝ月
愛宕殿 受領

彩拾 恋下
立かゝ
絶ぬゝ京のゝ思ゝ
仁和寺 入道前太政大臣

彩拾 秋下
かゝ
絶ぬよハ
梅宗後宮内

彩拾 恋下
ゝ
絶ぬあゝ
赤染衛門 家集

新千 忠四
ハ乃寺
絶ぬ山桜ゝ思ゝ
赤染衛門 家集

彩拾 忠三
いそかく
絶ぬ中ゝ思ゝ
中務 宣旨 家集

彩拾 忠又
かくゝ
絶ぬ世ゝ思ゝ契ゝ
中務 宣旨 家集

風 恋三
世中ゝ
絶ぬ物ゝ思ゝ
平貞秀

風 恋上
いまゝ
絶ぬ物ゝ思ゝ
後人乃知

新拾 尺
ゝ
絶ぬ物ゝ思ゝ
桂中納言 雅

風 賀
乃
絶ぬ物ゝ思ゝ
入道二条院讃岐 家集

彩千 恋中
家
絶ぬ風
後拾 法師

彩千 恋下
物
絶ぬ人ゝ
後拾 法師

彩後拾 忠一
ゝ
絶ぬ人ゝ
後拾 法師

新後古 恋中
絶ぬ
絶ぬ風ゝ
後拾 法師

彩拾 秋下
かゝ
絶ぬよハ
梅宗後宮内

彩拾 恋下
ゝ
絶ぬあゝ
赤染衛門 家集

新千 忠四
ハ乃寺
絶ぬ山桜ゝ思ゝ
赤染衛門 家集

彩拾 忠三
いそかく
絶ぬ中ゝ思ゝ
中務 宣旨 家集

彩拾 忠又
かくゝ
絶ぬ世ゝ思ゝ契ゝ
中務 宣旨 家集

風 恋上
世中ゝ
絶ぬ物ゝ思ゝ
平貞秀

新拾 尺
ゝ
絶ぬ物ゝ思ゝ
後人乃知

風 賀
乃
絶ぬ物ゝ思ゝ
桂中納言 雅

彩千 恋中
家
絶ぬ風
入道二条院讃岐 家集

彩千 恋下
物
絶ぬ人ゝ
後拾 法師

彩後拾 忠一
ゝ
絶ぬ人ゝ
後拾 法師

新後古 恋中
絶ぬ
絶ぬ風ゝ
後拾 法師

彩拾神
代乃たか
たて一四外乃文拾たれ神乃の山うこの
反の第の四句
彩千玄下
風を
たきれ玉ゝよせ玉ゝ庶よつて花白波
雲乃入の和歌乃
風
文
石ゝ乃
たきれ玉ゝ山郭ゝ玉ゝ山ゝ乃ん
藤原定家
彩拾玄下
みゝ乃
たきれ玉ゝ花や落てと消ぬ雪乃ふるん
藤原長秀
彩拾親上
ゝ乃河
たきれ乃ゝ玉ゝ山下風やさえ玉ゝ
藤原長秀
彩続古冬
石ゝ乃
たきれ山川乃やゝ氷よりなれ月の新てゝ
雅成親王
新千恋一
山川乃
たきれ玉ゝ玉ゝて人のさゝ玉ゝ乃ゝ乃ゆゝ
後人之和
新拾恋一
やま河乃
たきれ心と玉ゝ玉ゝつ思ゝ玉ゝよあまり神乃河よ
藤原為氏
月
親上
山乃神よ
たきれゝゝ玉ゝ玉ゝ村雨て玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
藤原定嗣
新千親下
ゝ玉ゝ人
たきれ白糸ゝ乃れて玉ゝ玉ゝ乃く神乃ゝ玉ゝん
清原雅緒
彩拾玄上
みゝ乃
たきれ乃ゝ玉ゝて玉ゝ玉ゝれゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ氷ゝ乃
藤原雅相
彩拾文
石ゝ乃
たきれ白糸ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ乃
藤原定家

新拾恋一
神よ乃河
たきれ白糸ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ中ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
平宰相
彩続古玄下
ゝ乃山
たきれ白糸ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
俊成卿
新千冬
落たき川
たきれ白糸ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
俊成卿
彩続古冬
ゝ乃川
たきれ白波ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
後京極摂政
新千親中
わゝの面よ
たきれ白糸ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
後京極摂政
彩拾恋二
ゝ乃月
たきれ白波ゝ乃ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
後京極摂政
彩拾親春
待人乃
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
性空法師
風
親上
ゝ乃ゝ
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
平政村朝臣
新拾恋二
ゝ乃ゝ乃
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
藤原基家
彩拾秋下
つれなゝの
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
後人之和
新続古賀
ゝ乃代乃
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
信実朝臣
新千慶賀
長代の
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
藤原為氏
たきれ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ玉ゝ
枇杷皇太后宮

新後拾遺
長代の
たちにし軍はあやまちのいわれなりけり　枇杷皇太后宮

新拾遺
無世人さ
たちてときけば八重桜かな　京極摂政太政大臣

月
長
かくれ世の
たちてときこそ行のこれば入るかな　度義公

新千
秋上
たちてこそ
たちてこそ輝の月もいさてなりけり　仁明天皇御製

月
賀
千年ぬか
たちてこそいまふりつめ雪の花ゆきもまさてなりけり　前大納言為氏

新続古
賀
たちてこそ八重世まで金とのこれる小松かな　源頼

新後拾
遺一
たちてこそ
たちてこそ深て流れる谷川の水　左大臣

新拾
賀
世とおさま
民とあれぬ国とあるかぎりの日つきは君のかぎりかな　御製

月
冬
さしこそ
民のうるおとまれ世の秋とまれ　太上天皇

新千
神
今とまて
民のかまとれ焼まて国をうるおすん我は君たれ　仁王八代御製

月
慶賀
あるよ衣
たちてこそ君のかたにたちて世をさしてうつる時の　前大納言為氏

新後拾
雅俗
おさまれか
たちてこそ君のかたにたちて世をさしてうつる時の　前中納言定家

新千
文
とくとく見
たちぬる前にいつきれ物思ひをあいつきれ物思ひ　仁光四条院前摂政左大臣

新後拾
旅
草とくと
たちいにこの契とて四月の人を友ともがん　読人不知

新千
離別
秋の人
たちいにあるかと草枕波の底にかくれて秋の人　紀貫之

新後拾
雅俗
たちぬとて
たちぬとなりて焼まつしあるこそ月の光　崇徳院

新拾
羇
寒さゆり
たちぬの床はさいふるとしの人とする　源仲正

新続古
羇
物かりの
たちぬの林はさいふるとしの人とする　源家清

新後拾
旅
河音と
たちぬのもとやはるかに秋をつきそむる地の秋風　源兼隆

風
旅
秋とこそ
たちぬのやうとも人とも人とうるおるは月とはるかや思ふ　後三条院

新千
離別
草よりて
たちぬのやうとも虫の音のかくれかの秋はいかにもあるか　法眼円伊

新後拾
羇
きとあきと
たちぬの花よりしもとあきと　惠慶法師

風
旅
色きれか
たちぬのあられと乱れてかくれかの人よかるらん　仁安元年十月

新拾
冬
さくかか
秋は風の色さしてたちぬ寺結上地蔵菩薩　前中納言雅経

新千 長慶
新長 張
新後 夏
物後 古 文
新拾 文
新千 秋上

みちのくに　被てあるく桜花　京やをくらを　小野文元古
寒ゝ如　被とゝ行ゝ山と行衣日数かさ〇て　後嵯峨院御
藤ゝ方　被とゝ行ゝやそ〇ゝ　為家卿歌
紅ゝ　被とうまくたちて　花の香と　文衣風　今上院御
波かゝ　被とゝ〇ゝのかたにやて　姫やまゝん　前四位宮
紅ゝ　被とゝ〇ゝ　風とゝて　姫やまゝ　後後院御

四百五十五首

新和歌類句集

よ

新後 哭
風 哭
新後 哭
新後 哭
新後

風忘三
新拾雜上
新古雜上
風雜上
新古雜下
新古恋上
新後九雜上
新拾恋下
新拾恋下
新後九忘三
新拾雜下

ゆきかへりこしのあきかぜ
ふきしをれ　やまぶきのはな
ちりぬれば　ゆきかへりこし
あきかぜ　ふきしをれ
やまぶきのはな　ちりぬれば
ゆきかへりこし　あ

新拾 立一
うこぬるのあるかの玉乃緒
ながらへてわくらの命乃たえぬるを
人しれずこそ思ひたりけれ

新後撰 立二
わすれてふ月しあやなし
ながめやる雲のはるかに
ふるむかしをとはれぬるかな

新後拾 仮下
風
ふきぬ
ら時雨いとをの音のみし
ぐるるやまをのうへの月

新千 立三
後しらぬ乃うの花
ふるさとの山ぶきの花
うれそしらぬうの花

新拾 雜下
ひさかたの天の川
ひさかたの月の
ひさかたの雲

新拾 羇
いとをしの
いとをしの
いとをしの

新拾 立三
ふりはへて
ふりはへて
ふりはへて

新拾 夏
ふりはへて
ふりはへて
ふりはへて

新千 立三
ふりはへて
ふりはへて
ふりはへて

新拾 仮上
風
ふきぬ
ふきぬ
ふきぬ

前代
宣孝
後拾遺
永縁
後三位
教長
前大納言
為世
前大納言
為定
為定
為定
前大納言
為定
為定
為定
前大納言
為定
為定
為定
前大納言
為定
為定
為定

新拾 立三
あるこしの山のうらのうらのうらの

新ル三十六
新拾仮下
新拾雜仮
新拾雜仮
新拾仮下
風雜下
風三
新ル雜上
新拾雜下
新後九雜中
風雜下
新ル雜上

世の中のうみてのうら　津守国基
なをうきものとおもひし　藤原信実朝臣
道をさへのこりなく　藤原信実朝臣
秋のうらに　藤原信実朝臣
月をまつ　藤原信実朝臣
伏見山とはのうきはを　藤原信実朝臣
松のうらに　藤原信実朝臣
時のうつり　藤原信実朝臣
かりのみち　藤原信実朝臣
なをこそ　藤原信実朝臣
君をしたふ　藤原信実朝臣
しるしなり　藤原信実朝臣
しるしなり　藤原信実朝臣
しるしなり

風 五十
新々 撰
新後拾 歌
新々 哀傷
新後 三二
新後拾 雜上
新々 雜下
風 三一
新後 三二
新後拾 雜上
新々 雜上
風 雜上

ぬれてこそ思ひ入江の澪つくし
澪つくしのしるしをたれて
たれてこそ思ひ入江の澪つくし
澪つくしのしるしをたれて
澪つくしのしるしをたれて
澪つくしのしるしをたれて

新拾 三三
新拾 三四
新拾 友
新拾 三三
新後下 三三
新後下 雜中
詞 物名
新 雜上
新拾 雜下
詞 雜中
新後下 三六
風 雜上

大伴の
[illegible]
北二条院
[illegible]
梅人伴の
[illegible]
前人伴の
[illegible]
前梅殿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
長徒
[illegible]
中務卿
平氏朝
[illegible]
後九条
前内大

新拾 雜下
新後 哀
風 三六
風 雜下
詞 雜中
新拾 雜下
新拾 雜下
新後 雜上
風 雜下
風 伏中
風 雜上
風 雜下

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新古雜中
新拾雜中
新後拾雜下
新古雜中
新拾雜中
新拾雜下
風雜下
風雜下
新拾雜下
新古雜上
新古雜中
新後拾雜下

はるやさとしるるを
立ちなるそうき
れいかとやまとの
山中にのこりいそし
いそしんうしてかしし
いそしんうしてかしし
ちりのる秋のねさと
ちるもみをみせそうや
ちりはるるものそ
山中とまみそそうや
うそいそうしなそ
ふ月のそこれ行き

よやまのうけくわて拾ひうそ　大江知
よやまのうれいをかとやまとせ　従二位経
よやまのうれ中三くに流るる庫　大僧正
よやまにのこりいそし　源重
よやまのうれ中のうれ中のうれ　周嗣法師
よやまのうれ中のうれ中のうれ　はる長舞
よやまのそうれけのくうそみう　坐元法師
よやまのうれ中のうれ中のうれ　左京東宿　真成
よやまのうれ中のうれ中のうれ　左京大夫　俊宿
よやまのうそうしてつるうにそうわ　法人家
よやまのうそうしてつるうにそうわ　元可法師
よやまのうそうしてつるうにそうわ　正二位経教
よやまのうそうしてつるうにそうわ　山内内侍

新後拾雜秋
新古雜上
新拾雜上
新後拾雜下
新古雜上
新後拾雜下
風三二
風雜中
新拾雜三
風雜中
新後拾雜下
新拾雜上

ぬ
新拾雜上
新拾雜上
ぬ
新後拾雜下
風三二
風雜中
新拾雜三
風雜中
新後拾雜下
新拾雜上

秋
ぬ
ぬ
ぬ

新後拾
春下

なにやなけ之子の杜の
ちゝの立みられしく之の
ゆ
ゆ

俊頼朝臣
人丸

風雅上
春中

梅さきて之みてしぬれて
こゝ
こゝ

西行法師
前中納言定家卿

風
秋下

こゝろいて秋乃そらはまれ
ゆ
ゆ

沈四位
為房卿

新後拾
雜上

九月のやの之ゝ
ゆ
ゆ

為房卿

風
雜上

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
立春

ゆ
ゆ

為房卿

新拾遺
夏

ゆ
ゆ

平氏朝

風
秋中

ゆ
ゆ

為房卿

新拾遺
秋上

ゆ
ゆ

中納言家隆卿

風
秋上

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
秋上

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
秋上

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
秋下

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
秋上

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
立一

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
冬

ゆ
ゆ

為房卿

新拾遺
立六

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
立三

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
立一

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
立心

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
立一

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
冬下

ゆ
ゆ

為房卿

新拾遺
雜秋

ゆ
ゆ

為房卿

新後拾
夏

ゆ
ゆ

為房卿

新古今
新古今上
新古今
新古今
新古今
新古今
新古今上
新古今
新古今
新古今上
新古今
新古今
新古今
新古今
新古今

祈子文

やりすまるるこのかたてまつるゆゑ麻の心ゆるすらん　仏ろ院

二百六首

た

三川の水をなにふやれ　谷川の流れるふ苔乃した水

出るもるゆるゆるるれ　谷ろけ一ゆるるみるの苔乃ろ点

まみれて我とうゆる　谷ろけ一ゆる考まの杉はとと

立ろり杉ろ九し　谷ろけやらいて流のみろ杉て

そ乃ろの川ろ苔むろ　谷の点し氷をろくゆ乃風

ゆ風しかるみしゆろ　谷の点ろ点ろれめ点乃苔

苔風ゆたゆ九させろ　苔の点り新苔て苔ろ杉く

住山むろれはる　谷水を洗苔風とろしけるみ

祈子文

祈杉文

祈杉雜中

祈後九苔上

祈杉雜上

祈後九苔上

祈後九苔上

風雜上

法服法衆

入道殿一品

祈とる国

前大僧正　道三

苔後初花院

前大臣内大臣

おろ仰し　経徳

おろ院　四条

後大僧初　変尊

法橋初九

後福光園

摂政家六条

後二条院

摂政院　初九

源氏物語

養性院殿　尼大九

聖誉法親王

前大僧正　吟後

三条入道前

大政参九

法蓮法下

摂政政範

侍従乃祝

源有長　初九

後福光園

摂政家六条

祈後

立一

風

雜上

祈杉

立一

祈後

雜中

風

冬

祈後

冬

祈杉

立一

祈後

雜中

風

冬

祈杉

立三

祈十

立二

祈杉

立上

祈後

冬

祈後

立上

行くて山三川くるるもぬ　苔水ろいたなる陸よもし立四

住山ろ四ちえろ苔　苔水ろくゆ山ゆくて三ろ人

もしろ立ろ苔水ろ杉ろ　苔水ろ杉ろこの山ゆくて入ろも

さくて苔ふ苔ゆ成せもく　苔水ろ杉ろ方もなく氷ころふ

かくとゆに苔ろよしゆふ　苔水ろ杉ろ三ろ山ろ苔ろ

山さろのしさ苔ゆに　苔ゆ杉ろ世ろいそ苔ろ

苔ろころゆれろふ苔よ　たゆ三ゆ苔ゆれりやろの風

なろろ孫ゆ苔て苔と　たろろろこれゆろとふ氷

我ろろれ一や苔と　たろ苔ゆ孫ゆめろ杉ゆ

苔風ゆろふろや　たろろゆ極ろやろ苔ふ杉ゆ

苔の又ゆなろ山ろを　たろゆれろんこゆれゆいも杉ゆ苔

苔とに杉ろ人し　たろ杉ゆ苔ゆ杉ゆ

新拾 冬
なごりなかりしとうそ　たちうしろ池のこほりよ　源義家朝臣

彩千 雜下
なりけりとうらに夏うと　たちもとまりこしろよりたにうつる　隆子内親王

同 雜下
うつりとまりてし枕そ　たちうゆさこかまつる夏はなかは　法中實性

風 雜下
ゆもや夏しの三ヶ夏ゑ　たちしくいよ三ヶうつりてすさ　右京大夫

風 冬
雪はらへ乃ゑよはあわ　たちおくれはしかりに月をみる　坂深井院
ゆ雪に月をみる　　内侍

彩拾 雜下
後ゆうかゑ三はなるゆの　たちうるよゆゑへをゑん神乃もの　權中納言為重

彩拾 夏
神ぬまをゑみ三はしにて　たちえ乃白もいはゆしゆ　法大寺前大僧正

風 雜上
はゆうゑ君ゆうゑうかゑや　たちえ乃みまさゑに松つゑん　前大納言為兼

彩拾 夏
ゑゑ波きまもわゑん　たちうしゑれゑゑ　法皇御製

同 夏
ゑゑ神ゆ君ゆゑとゑく　たちえ乃ゆしゆうゑゆ番ゆゑん　前大納言後定

彩拾 雜下
神ゑ雨ゆしゆはゑ　たちうゑゆゑゆこしゆはゆゑゆ　權中納言長方

彩拾 夏
ゆはゑ我ゑ三のゑん　たちえ乃ゆてゆゑ風よゆゑゆしゆゑ　式乾門院御匠

彩拾 夏
はさこれゆ夏にとゑみを　たちうしまゑわ谷ゆ下のゆゑゆゑん　法性寺入道前關白太政大臣

彩千 夏三
ひゑ鳥乃うき夏ゆ元ゑ　たちうゆまゑん人ゆ夏ゆゆゆ夏ゆゆ夏ゆ　藤氏門院但馬

風 夏二
人ゆゆき夏ゆまゑきゑ　たちうゆゆゆゑゆ中元ゆゆゆゆゆ　和泉式部

彩續古 夏四
ゑゑ乃ゑゑ乃ゑゑ元　たちうゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ乃ゑ　曇西上人

彩續古 夏上
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　たちうゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　後人不云

風 夏二
いゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　御門法皇

彩拾 夏一
ゑゑ元元元乃元ゑゑゑ　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　我立長

同 夏
雜元元乃元ゑゑゑ　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ神の元ゑゑゑ　法中定為

同 夏
元元元元元元元元元　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ元ゑ元元元　前中納言定家

彩續古 夏上
元元元元元元元元元　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　左京大夫基氏

彩拾 雜下
雜風元元元元元元元　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　御門法皇四十九

新千 夏
元元元元元元元元元　たちゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　坂深井院川内侍

新千載上　たきをてし煙乃末乃　たちのぼりたとしもいかる雲乃さとりい　乗出院の製

新拾載秋　なの見て今宵ぞ　たちのぼりなれこそ涙の雨なれ　歳暮の上人

新続古今五　身に染つゝ秋さそふ松風や　たちのぼり我ともしらぬ　東大寺の名定

同　載上　うらぶしなれぬ物思ふ　たちのぼり谷風こもるこゝろかな　東大寺禅守

新拾　五二　見うきをし祈りをとゝ　たちのぼりたきの人ゝ　八条今内大

新続古今五　もとゝしあはせうらぬ　たちのぼり松とはなれぬ　百秋門院

新千　秋上　あきの夕あらし川なる　たちのぼりはなれぬ松　妙蓮寺入道

新続古今　載上　乾りてさらしき布乃　たちのぼりて初めて　三条実通

同　載上　きぬ〻の川なる　たちのぼりなしてこそ　泰盛卿

新千　載中　なぶりに散る桜を　たちのぼりたゞまぬ　御製

新拾　雜上　はしりとゞめぬ　たちのぼりなれぬ　東中納言定

新千　雜　わをはすよ　たちのぼりてこゝ　夜の秋氏

新拾　雜上　身につもる雪　たちのぼりとゝしもいかる　花園院の製

新続古今五　人ゝ　たちのぼりて本ぬりしく　東中納言定

新千　冬　ふるの乃なき　たちのぼりたゞ　東大寺長

新続古今五　こゝろをはらてなた　たちのぼりあ三ふ　法中慶運

新拾　五　身のうらなけく　たちのぼりとゝ　西三宮院

新続古今　夏　けさ〻わ袖もうらく　たちのぼりこゝ　今上の製

風　夏　風たつ松乃末つけよ　たちのぼれ沖もしき　今上の製

新続古今　天　すしやと川波乃波　たちのぼりたゞ　東大寺法蓮

同　雜上　雜波て志ゝ　たちのぼりて　東大寺法蓮

冬　戸波乃物ハ　たちのぼりて　惟中納言雅

同　雜下　時とゝ乃松乃ふりよ　たちのぼりて　東大寺法蓮

新拾　雜下　ゝ乃ふりの　たちのぼりこゝ　後鳥羽院

たちのぼりこゝ　後恵信

新続古歌上　たれとかは君てりいくとせかはるらん　つき　前大納言実宣

新千載　神もいるるのれくしの　花園院

同　おもかけなるそなるやよ　原

同　ちるはしるくなるもの梅花ぬしよりわ　前大納言為氏

同　ちるはなそせのなかれ井も我うゑわかれぬ　院御製

新続古歌　ちるやはるもはかりなる　信実朝臣

風　ごしはふるこらしるとも　前大納言為氏

同　をいなはねしはみえく　前中納言有忠

風　あけぬ文点のをふりてり　前大僧正隆弁

新拾遺　ちるの風はは煙りをと　前大納言為氏

同　ちるこのそをそめしやうしの紅　正三位家隆

風　ちるはいるるに風乃　土御門院

新拾遺　ちきはそをみはしの　御製

新拾遺　ちるくそうにの不義を　後条院御製

風　梅花いとやはるとて　前大納言実氏

新拾遺　たにをわしてをふそわうるの人乃　人丸

風　いもうくあはつえは梅を　前大納言為氏

新拾遺　あをの風あをしの人梅とりの色みん　前大納言経継

同　あをの風吉次こうへく　浮舟尊邦親王

新拾遺　あをうにの衣うにかわ　後二条院御製

同　はのをの風次よ春しか　前大納言為定

新千載　かりとはなりにけれ　乗山院御製

新続古歌　梅の高あけぬとさけと　中務宮宗尊親王

新拾遺　そしてしかれたのへそ　嘉楽門院御製

新拾遺　月新りさしくしあの　吉田兼好

新後拾遺 春下
たれいさけるゆふぐれの
実盲寛尤僧

新拾遺 春上
そらはなつかぜ
京中納言定家

新後拾遺 雜上
たちこめてはるの
中納言家隆

新後拾遺 雜上
たちこめてはるの
直明王

同 春上
たちこめてはるの
荷他利花院
木実白毫僧

同 雜中
たちこめてはるの
明魏法師

同 雜下
たちこめてはるの
梅宗保資卒

新後拾遺 夏
たちこめてはるの
為家卿

新後拾遺 羇
たちこめてはるの
京中納言雅教

新拾遺 雜上
たちこめてはるの
京恵法師

新拾遺 雜下
たちこめてはるの
清寺四冬

新千夏
たちこめてはるの
為道朝臣

新後拾遺 雜中
たちこめてはるの
後九条内大臣

同 冬
たちこめてはるの
出羽法師

新拾遺 春上
たちこめてはるの
永陽門院

同 秋上
たちこめてはるの
九条女

同 立四
たちこめてはるの
後二条入道前太政大臣

新千 春上
たちこめてはるの
月輪院

同 冬
たちこめてはるの
京極為兼卿

新後拾遺 秋上
たちこめてはるの
従三位雅孝

新千 夏
たちこめてはるの
蓮生法師

同 立一
たちこめてはるの
法皇御製

新拾遺 立一
たちこめてはるの
京極中納言定家

新後拾遺 春上
たちこめてはるの
中納言家隆

同 春下
たちこめてはるの
京大納言通

新拾 五三
同 新下
新千 秋上
同 五四
同 新上
新続古 五三
同 新下
新拾 夏
同 夏
新千 新上
新拾 冬
同 冬

ちとせをへてみれどもかはらぬ
いとどふるさとをしのぶ
七夕ぬれてのちのわかれは
ちとせをへてのちのわかれは
ちとせのいとまをこそ
みなくてゆかぬ
ちとせのうぶすなかれ
ちとせのうぶすなかれ
ちとせのうぶすなかれ

初拾体下
初千体下
初後拾夏
初拾体下
初拾雜中
初拾長
初千体下
初拾雜
初後拾体下
初拾体上
初拾体下
新千体下

やしは又神代をきこえ
赤田川月の水よりのくてゐとは
たてゝ川わたもの水のきこゆらん
この歌のうゐ海の波の
たてゝ川暁ゆくかふ妹こう所
あのみそきたてゆふ波
たてゝ川妹風ふけてめさとらん
法寺四条
みちくもゆみきて
たてゝ川みくゝ波うゐとふ所
西之院
世のなかいたくてゝ
たてゝ川紅葉ふる妹し一とれ
前中納言定家
いろいろしなきあをを
たてゝ川みちぬらとをけ三
西園寺公経
紅葉いろいろなくし
たてゝ川ぬらとをけ三
人九
あさぼらきをうゐ花ふる
たてゝ川ぬくもをはの名うか
宮内卿家定
後成女
たさんつりもゆくこう
たてゝ小柳し妹乃いろをそ引初く
従二位藤原為
前大納言為
相模こう所ら妹乃
たてゝ小下ふに寄やもしそもん
従二位藤原為
前大納言為
なされいわれこゝ月
たてゝ山三ちはいの名つさしなわ
頼人不知
紅葉しの月ふるて
たてゝ波とのかる山ち妹やそもん
前大納言為

初後拾体下
初千五一
同
雜上
風
雜上
初拾雜ちゝ下
同
友
同
雜云
初後拾雜下
初拾体雜上
初千体下
初後拾雜ちゝ
新千五四

うもしろうわをやけくを
たてゝ旅風次をぬ妹の相ちり
参議雅経
のの月ふをくもふれ煙
たつるをしをくゝ月ふ命
金葉二度本
山ぬゝ乱月そゝに
たてゝやゝき世のうゝすゝ所やさ
詳子内親王
うゝれ山乱月ぬゝ
たてゝやゝこゝのゝ乱れ下ち
定誉法親王
たゝをはをこゝの月
たてゝ乱れ部乃木ゝ成ゝわ
宗遍法師
伝西園寺家
四八九女
伝西園寺家
四八九女
伝西園寺家
四八九女

新千賀二十　同　玉下　新續玉下　同　覇　新千玉五　風　玉中　新拾玉一　新千玉四　同　玉上　風　新下　新續玉上　風　後

月のかすみてあるかなし
吹とく風にたとりてり
ちりぬるなとわれて春はよ
海はるかに煙たちそめ
しのしみし野中の水を
見うしなひのあるこころ
いくとんそにとまれる
たさりにぬけの浦よ
ちりぬ春しいくへ
波鴻のみちに我若ハ
あしのやかたにすはやき
一日はさとのちりくよ

たつ○うてしてあ代はあ白うりか　二月は紀貫之　定明
たつ○うてしてはさ口とうまれ白風　前中納言雅孝
たつ○うてうれあるもふれ元ふとあを　二月は紀貫之　守元
たつ○うてやと白ハあそさしさ　後鳥羽院御製
たつ○うてはうゆ神ともめしつる小　皇太后宮大夫　後鳥羽
たつ○うんあるきうとしれたやあと　前中納言家隆
たつ○うてうれあるもの春ハ　為氏卿
たつ○うるもの春あるうんや我ハ白ハん　宗于卿
たつ○うるもの花くれあゆくに南風ハ　光俊朝臣　藤原為家
たつ乃京やとものこ白ものし　前中納言定家
たつ煙さとうくるの夕ちうか　前参議教定
たつ煙ゆけうしうくん白白か　後二位殿

新千玉一　同　玉下　風　後　新千玉四　新拾賀　新續玉四　新千賀　風　林　新千玉五　新千林上　新拾林上　風　林上　新拾林下

ちのいくのそてり
あとの川ふとけくと
ふそ後ハやうを
ちそのうの川野人よ
世ちくみきれ行の
いくくわいふ極けろ
ちうちし一のれ乃
つれしなれ人乃白の
あさ乃京ぬやうけん
いくとをとれうてし
あ手とまとにのむ
白の川ちくこうり
や

たつ煙みをやぬ〜ふとよ白うて　後鳥羽院御製
たつ青はやうちくこ玉だのうよ　赤人
たつ人くこ白うさ月ハのあれ　藤原定家朝臣
たつ人ハ白ハ又あいたしと春ハ白せし　中納言為家
たに称るれ手ちのちせ白そうふさ　後嵯峨院御製
たに称のしんうん世あうる白乃ちる　永福門院内侍
たつ○ちあれは神の京井ちち世や　後光明峯院御製
たつ○うしあちち極のよ小ふ白ち　後二条院御製
たつ○うしあ乃里白やうわに青白ハ　大納言雅信
たつ○うれ白やうしちうち上常　後二位殿
たつ○うくこ乃白やうとき白ものち衣　前参議俊隆
たつ○うくこ乃別し中にいうふ玉りさ　康平義改

新後撰 雅杖
一ちをも思ひなりてく
たかるとき中もうこうわ花ろ
藤原資朝 卿
さこ思ひき思ひなり孫と
新拾 妹上
たかるころもはるるん
後嵯峨院 実白左大臣
同 妹上
いく妹しなめぬ思ひや
たかるこ乃花ようあるこなるん
前実白左大臣 清
新後撰 妹上
ひこに初る中こと
たかるこ乃こういとみんあるし
中納言俊忠
同 詠
妹乃ふ寄こそりも人へ
たかるこ乃てもとるめ思れ乃
頓阿法師
同 妹上
夜ころ乃ふ寄こ乃ふ
たかるこ乃あきり乃ふ乃のこ衣
源重之
新拾 妹上
ここひてし恨やられ
たかるこ乃行ふとの世衣ハ
前大納言 季
凡 妹上
ひ乃へくこうこめ物を
たかるこ乃妹とこめる思ふ
源義詮朝臣
新後撰 妹上
着ろわいよちきわて
たかるこ人へやこめ物みん
後頓部朝臣
新後撰 賀
新代乃くめ乃こそたく
たかるこ乃ゆ乃ふ乃世日の祝
三位隆教
新拾 妹上
時しもあれ思ひ乃ハ
たかるい家と松ひきもし君ましこえ
永福門院
凡 新中
入日さ沒思ひ乃れ
たかるいさてもふるよ人ろ島乃一あ乃
順徳院御所

新後撰 妹上
さ乃ひ乃ろれよ寄ろ
たかるこて川ろい柳ろ乃れよ寄わ
家隆卿
新千 妹下
文本もわなれさの寄
前中納言定家
凡 尺
ひふまとしまとこめ
たかるこ乃ろ乃ろ柳ようこいろしこ乃ろん
前参議俊成
新千 新中
乃ろりえあこれ一さうろ
たかるこ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ
枝中納言為
新後撰 衰
あとろ人へ袖そ寄けさ
たかるこ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ乃ろ

新千 拾

たゝ宮とゝろぬさ荒風やまとの空ん　貫之

新拾 五四

たゝむ（こゝ今八本とゝ）ゝ海ゝ　侍賢門院 彰

新後拾 哀

あとゝ川あとゝもいゝて世中ハ浮ゝ　法寺関白

新千 五三

いつりもさゝゝハいゝ　鷲尾三位雅子

風 拾

たゝし（きこのあゝてゝ）ゝ　東北院職

新後拾 五二

人ゝ（ゝ）れぬとゝ（水のゝ）ゝハ　法皇慶運

新拾 五三

いゝゝゝれとゝのゝもゝて　後二位雅子

新後拾 五三

世きゝゝり秋いゝ世ゝ　多ゝ良浦 知光

新後拾 五三

ゝゝなゝゝ秋ゝゝゝ　大宮右内侍 隆

新千 八

ゝれゝゝゝゝ月ゝ　東院内大臣家

新拾 補

ゝりゝゝ補ゝゝゝ　後京極摂政 知光

同 五

ゝゝゝゝゝ我ゝゝ　源通秀

風 新中

ゝりゝゝとゝゝゝゝ　東大僧正道 云

新拾 五五

ゝゝゝゝ恨ゝ拾ゝゝ　法寺関白

新後拾 五二

ゝゝゝゝゝゝ命ゝ　後照念院 内大臣

新拾 五二

ゝゝゝゝゝゝゝ　中納言定頼

新拾 尺

きゝゝゝゝゝ命ゝ　赤染衛門

新千 尺

ゝゝゝゝゝゝ命ゝ　法眼行尊

同 補

ゝゝゝゝゝゝ世ゝ　東大僧正良信

同 五三

ゝゝゝゝゝ　乾門院宰

新拾 五三

ゝゝゝゝゝゝ　赤門院 内大臣

風 五三

ゝゝゝゝゝゝ　院宣旨

新拾 五三

ゝゝゝゝゝゝ　東中納言有 雅

同 五三

ゝゝゝゝゝゝ月ゝ　陽光部有 雅

彰千天
一なしそのあるときてうく　たりむこそうの道にたりしかば　第大納言為氏
彰後千天
あるこいのよにぬるかたと　たりむれをやとりしのうのを　第中納言為相
彰千立三
かるとうれとしまてそ　たりまうこけうきとかもたくてこそ　源仁氏納言
彰千立三
ゆくもいようわしてそ　たりまうこうきたりかるれも　仁京院製
彰立二
ほうにそ明れ　たりまれ○とまあ方れこうりこ立　二京法親王　第院
彰後千立五
我うしく　たりまれあうはあるこけ　中国入道宗
彰後千立三
くはまむ　たりまれてうしたれ　天西芳寺入道　第摂政太宗
彰立三
さうこめあうしは　たりまれてかてハんれてしとハ　院別當
彰後千立三
うしあるあ　たりまれてのうのを世　第大納言為定
彰後千立四
乃あ（き我の　たりまれてう世といくあ　源光正
彰後千立四
いよきんかふ　たりまれて行孫なけ　後京政元
彰後千立三
かなりとそ　たりまれて行後ふけり　後一條宣子

新拾 五三
風 雅下
新拾 補
新千 五五
新續古 五二
風 雅下
新拾 五三
新續古 五二
新拾 五四
新續古 五四
新千 五一
新續古 五三

さわらしのいとりてたのめともいひしきなるゑ者しは　前大納言為兼
まつのかをむすこ[illegible]けさ　たのめともはなるゝなれはてなさ　上西門院兵衛
神とをてめをとゝ　たのめともわすれたりけきことのゝそ　中務内侍宗尚
今なをいけるわにゝなよ　たのめのやうるゝれはとなるかん　平行氏
はかなきいろやうん　たのもしゝかことのときなるゝ　前大納言為定
花の香あをもゝ浦　たのめときこしきことのゝ[illegible]　従四位前寺公
はをなをかきりをゝ　たのめはなこのの月のちはれそう　前参議兼友
なをとりに京なるゝ　たのめきんうれはゝ命なをを　権中納言雅世
初瀬川あいうんを　たのゝしてちゝやいつこむれ秋　中納言入道前大僧正
いけもてつはらゝ新　たのめしも昔ゝりれ変のうれ　権参議仲資
ちてをのこはゝりを　たのゝうてはゝもちる恋もゝる　祐恒
なはゝれ変はうゝを　たのゝうてみいけゝれ変やまをは　為兼卿

新千 五二
同 雅中
新拾 五三
新拾 五四
新拾 五三
新拾 五五
新拾 五三
新拾 五四
新拾 天
新拾 雅中
風 俗
新千 雅上
新拾 五五

てれをきはをゝわはいけを　たのゝうてあはゝうん人とをを情ん　源知行
けりをゝををちてゝ　たのゝうてゝをゝをゝをゝ世ををゝ　従下実性
ゝをちれをゝゆゝをれをん　たのゝうをゝをゝをゝをゝ　源時秀
いゝをゝんをゝをゝをのの　たのゝうをゝをゝ変をゝ　従一位為子
かをゝしと変しをゝを　たのゝうけゝる我をゝをはゝ　源五位
いけゝわれ変たりをも　たのゝうてゝやゝをゝをゝ　従醍醐院女蔵人五位
あゝてこそ立をいけりゝ　たのゝうをゝをゝの泊ををふゝのちなゝ　平時邦
変あれそれをかをそ　たのゝうをゝをゝ世をゝ為よれゝ　為道卿
あつをゝを君ゝをゝ　たのゝうを和をゝをゝをれるゝちゝそれ　道命法師
同身みえをゝをゝを人を　たのゝうてゝやゝをゝをゝ別なゝわ　民部卿為定
ゝめえをゝをゝいを変を　たのゝうてゝをゝをゝやゝをゝをの宮　二条法皇宣旨
いゝと方にゝをゝ人をゝ　そをゝをかのをゝをゝをゝをゝ　[illegible]

風雅上
新千夏
新後拾賀
同賀
風雅
新拾夏
同冬
新後拾冬
風雅
新千夏
新千
玉葉
新拾
玉一

れはなきこのうらの
たちかやのしらこゑ
ほのぼのと月
夏なれとこけくもも
たまのうてなの道たにも
みなれしわしみけ
たまのうてなの道たにも
みなれしわしみけ
たまのうてなの道たにも
みなれしわしみけ

新千賀寄　神山に君をしたてふたまつるは八代の君のなごりなるら　賀茂経久

新拾賀　君住こゝろはいかに八代さうん　第大伯三後光

同　立一　いまもなほ立ちかへる年れたまつさはにかさりをかざしてす　花園院

同　立四　月の国にたつる波乃たまつさはやうこしたくかなわ　以仏法

風　立三　なぬさうにへふるらんたまつさに思ふ人をわくはおさん　宣光門院

同　立三　思ふ程はいとしとたふたまつさに恋しとれはすむことの　儀子内親王

同　立二　君おもをは子うみうくうたまつさにみこれ君とたとこめの　進子内親王

新拾　立二　偽乃ふのうこ子れたまつさにうねてしうこみ行の　素覚法師

新続古　立下　見ゆ行人のむしとなるたまつさにいく妹けく唐崎の　大義有り

新拾　立上　涙うなめとうも袖なるたまつさにもとけく唐崎の　前実右大臣

同　新拾　妹思へこゝろまとの高たまつさにかれもみよこけこ　式部卿有親王

同　立上　わかつひのこゝろ浦うたまつさにもしくにちけこれ妹　崇徳院　四番

新続古　新中　君みよとゝきあつめうたまつさにとつくし風乃てふ浦ふ　権中納言通俊

風　立三　行とたくうらしとまつさにかきねしなけ　権大納言公実女

新拾　立五　かきねえおろうあ分たまつさにの方わしとれ東たた　桜町院下

新続古　神　我まて三代よけうくたまつさにまつ海うかあ乃うくこたろ　権大僧都覚乃

新拾　神　ふなれひわとふたまつさに三海代ゝまてて神やうらん　清寺関道

新拾　新上　寄しかうとつぬとたまつさにみれとりふや代ゝ乃数よたらん　太上天皇

新拾　冬　春とてふれしいとくたまつさにやとさしと乃家みうらん　源頼元

新続古　立五　ふしへぬなみて孫のたまつさにの松よこたくうくに思ふこれ　義将朝臣

新拾　立二　あふまてと平のこゝろけたまつさにの編乃ふもう身にもう（よりう　仁恵法師　実右大臣

新続古　立二　あふ事に人とれふたまつさにの結乃くこあふわやこのこゝろん　今川了俊　一示　祝し芳門

新拾　立二　いくこうにまハへよかうわたまつさにものとなるうへくこ思ふ　夜叉丸　祐朝臣

風　立二　君にあてこうくこ成たまつさにおとのかゝき今れおしまくしは　法人不知

彩松 新上
彩撰 立三
彩古 立四
彩千 立二
彩松 立五
同 立三
風 立上
彩続古 立三
同 立五
彩千 立三
彩千 新下
彩続集 賀

秋のてあくるほどのうの
たまくにいくとなくれ時ぬみりん　藤原後孔 知れ
こゝろいくかりうめ花の
なまくに今ハ風ハらすもしふ　法下長兼
あるぬにのみし八夜の
たまくに四つ爰ちぬとなりるん　藤賢法師
いとりのこゝろ〳〵神の
なまくにはるしれぬ八風なわりり　安嘉門院 うた合
玉ゐいに移りよ玉
たまくにはるき実ぬけるれりん　前大納言公
夜くれなれと玉ふ
たまくに風とゝ〳〵ゐ鳥やゐん　藤原冬長
宮あけく月ハ新く
たまくに橋のあるれ初れるれ　進子内親王
恨ならぬ初れ乃
たまくにあふと見こたる爰ゝそ京　和泉式部 知れ
いとりのゝ初ゐ乃
たまくに春の風ハいとふもに　松殿宿都 覚乃
ゐなくやう玉海なの
たまくに歩やそ四りよりゐ実り八　松殿四条
ゐゝゝを玉の小風乃
たまくにあぬゝゐあぬ時しる　永福門
いとゐも光れゝとゝ
たまくに初ゐよ乃編ゝゐれや実らん　松殿中納 雅世

風 立上
彩拾 新上
彩続古 霧
同 賀
同 夏
彩拾 煙上
彩拾 賀
彩続集 煙上
彩千 立三
風 冬
同 夏
同 新中

うれよりぬ玉のあれ
たまくこうの人乃かゝけれそられ　藤原親行 知れ
玉ハ乃ゝぬゝとゝけど
たまくに上にぬゝゝと爰る爰の　源孔氏
まゝ心ゝこゝくれて
たまくに海乃さゝの庭きにゝ橋うゐ　源宗忠房 親王
れ乃ゝの爰やけ中
たまくこの爰ゝゝ世れ数ゝふらん　成尋寺宮 前大大
くゝわなれ玉ゝ
たまくこゝゝの砌よりあゐ友れゝの月　後光厳院 山製
あぬ乃原月れ部を
たまくこゝゝの日わに見ゝ妹風須　法寺関友
くゝゝれ玉ゝ爰
たまくに日新ゝゝやとゝのあゐ見　清浦 知れ
乃ゐに玉ゐとぬゝ
たまくかゐあゝゐゐ乃妹れゝ風　待従伊坂
ぬゝ風ゝ我乃ゝ
たまくゝれ恋りゝゐつゝ入夜ゝゐ　業平朝臣
ぬ乃ゝ風ゝ
たけ乃ゝに風ハよりわて書ゝ初わ　前大納言公
乃ゝに日新ゝ初ふ
たゐれゝにゝゝしゝ見恋ゐゐ会新　藤原光 大臣
ゝゝ乃ゝ乃ゝ
たゐれゝゝ天ゝゝゝゝゝゝゝゝ　院四条

彰子 新中
新後古 新上
新千 補
彰後古 五五
新拾 五四
彰後古 五五
彰良拾 五五
同 五
彰千 補
彰後拾 新続
彰後古 五四
彰千 続上

たゝえて代にうもれ　なをれそのみにきねしとれさるは　二条院讃岐 永定
富士の根のそこにもたえぬ　たこれうゝ入りしれ煙をしのぶて　祝部成茂
我こゝろ思ふこゝろ川の　たゝふうゝ三川にこゝてわと身をいため　前右大将 多教
瀬川あふをしやうて　たゝもてわ人めみをきくとせしまに　前大納言 兼
たねにまゝふかるせふう　たゝうゝん山下水れめをき契を　後京極殿 教
涙とゝやゝ人のうゝふ　たゝにきんいくの星れ夜川の糸　後京極房 教
樂れ侍ゝこのまゝふりは　たえあゝふを侍ゝき三つ人のゝにれ侍ん　頓阿法師
そのまゝにやて命し　たえめゝしけふ身にふるあふを歳を　大納言師賢
あゝちゝあるをゝ程ゝをも　たえめゝをゝそゝけめ夏の日　津守国助
さ程ゝるふゝこゝふ水ゝよ　たえめゝゝわにられ家ゝをゝれ侍ん　陽子内親王
いゝのあり物れゝけ縄　たえめれ侍ゝきゝやめ樂れ　四院杉殿 前九年
嵐ふれ侍ゝもゝや　たえめゝん夜ゝゝ月ゝゝきの橋　前大僧正寛 越

風 炉中
同 夏
同 冬
同 炉中
同 五五
同 冬
同 炉下
彰後古 五四
彰千 炉下
彰後古 新上
彰の 炉上
彰後古 炉上

朝ゝ家ゝ月れゝしまの　たえゝにゝけゝるめこゝはゝう金　伏見院御所
あやめつゝみ物れ立ゝて　たえゝに時れにもゝふ月夏ゝ　院冷泉
たゝゝふゝしゝそゝにみ時　たえゝにゝ山ゝをゝふれゝくを　民部卿為定
餐ゝのゝたゝく初を　たえゝにゝ人のゝゝ月ゝゝ月ゝゝふき　松殿前内大臣 公隆
あゝふゝと初本ゝゝれ　たえゝにゝふゝれゝるゝにゝかゝ　後京極殿
あゝ日新ゝゝや立ゝ　たえゝにゝうゝゝ月ゝゝ三ゝ者　華恵法師
けの国の井なゝゝ音の　たえゝにゝあゝれ夏ゝめゝ月の杉　孫忠平親有 釈王
ゝのゝゝゝゝしゝゝめ　たえゝまゝゝとゝかゝゝをゝゝ秋のもの　百秋門院 一条
炉きゝれゝしゝゝゝゝ　たえまゝゝれれゝ名ゝれのゝ歌　永福門院
朝ゝゝを雅さ八れ音れ　たえまゝゝわゝゝゝたゝきのゝゝ　前大納言 忠良
久方ゝ月ゝ雲ゝ乃　たえゝゝゝゝゝ月ゝゝゝゝこゝに炉風ゝ吹　順徳院 御製
あゝゝゝゝゝ雅京れ音の　たえゝゝゝゝゝゝゝ雪ゝゝゝゝゝ炉　前中納言雅孝 萩

新千 妹上
新続古 三下
新千 妹下
風 三下
新拾 三四
新拾 三四
新千 新下
新拾 冬
新拾 三四
同 三四
同 三四
新千 新中

風をいたみ　たえぬうらいつる月かな　後水城法
みどりなるさ山の松はれ　たえぬうらわかるるくもさそふ　斎宮内侍
立ちもしてわのはさまの　たえぬ岡のあせかりそめ　前大納言家教
三月の月　九条九条女
いかなれば下の水をれる　たえぬ岩ぬ水をれる黄代の
いかなれば下の水をれる　たえぬ岩ぬ水をれる黄代の
いかなれば下の水をれる　たえぬ岩ぬ水をれる黄代の
を山のはにかけ縄　たえしらぬ松のもとたりなが　秀胤法師
あきかぜにかけ　たえしらぬ山田の居にうつる人しも　道宣上人
見ぬ秋の心のかぎり　たえしらぬ雲のもとにうつる人は　俊頼詠
なとわぶる池のもと　たえしせばふるよ上のとかんそめん　源実氏卿
らふる風ふる松の　たえしせよ行くれいまも中の夜の　中文章公宗母
又し見ん　たえしせて行きうつしにあるを　行蓮法師
ちるやあるうら代の　たえしを涙にぬれ行くあるを　法光の四院
前千 妹下
新千 三一
新続古 新中
風 突
新拾 妹上
新千 新中
新拾 三一
同 妹下
新千 新上
風 天
新続古 三一
風 三一
新千 妹下
新千 三一
新続古 新中

風かぜ　たえしを涙もとうの川の一かはれな　院二条
夜しもそう萩の風の　たえをあはいそのあれをとめくらん　中務内侍
たえをの　たえをの　中務内侍
たえをの　たえをの　中務内侍
たえをの　たえをの

風冬　彩後古五　彩千五四　彩拾新中　彩千五一　彩後古夏　彩後中炉下　彩千冬下　彩後中新上　彩後古冬　彩後古新上　彩千夏

ゆりつるかをまさに落る
たき川の底深よりきく水は白波　二条院讃岐　定明
うかりける人の心をみるにわれこそふねの浦成りけれ　權大僧都　覚雄
たきはきにたちそふねの浦成りけれ
みのしろ山をわたる
たきはきれとやくかをなほ山は　皆覚元良親王
たきはきの中にそらと行とたしなん　西行法師
海ぬもかりごころ
たきはきの中にそらと行とたしなん　權僧正覚信
しらさは神もとうぬ
たきはきの中なるとにふる雪こそ　源光正
思をくらんたてれく
とかた川をみられしふ
たきはきの中なるとにふる雪こそ　源義將朝臣
うれしきを井に見ぬ
たきはきの中にそらと行とたしなん　後鳥羽院御製
はらめてしもをわまてら
たきの糸もまきおろにそとけてを　藤原信実朝臣
風さむしまとをとけく
たきの上はあさけをまちる義小　九条將公若
さてはりをえもきては
たきはきの上の月　楚燈法師
久方はをるこ次
たきはきの上の月毎夜　泰敬雅經

風夏　彩千冬四　風猿　彩千冬中　風一　彩後天　風炉下　彩後古冬　彩千神　彩千賀二　彩拾賀　彩千賀二

夏心乃たけこうたてる
風須ふさこうふたはれ
こう衣あさこうり人を
彩ちきれのあしれ
立たるんなあるれの
梅のうかみの体の
いろをこうみ人さ君の
世の人のいくふかの
とこをもいけいれ代の
おさまれる世のことわを
かなへたるこいを君
もをこそ代こ君のみこと

たきれらてぬりと流さ水れ春小　平政村朝臣
たゆまとこもみきつあいこかて乃系　九条定輔
たゆまなわ雪にてもまるあ春元　順徳院御製
たゆまきれよりく流乃ちうか　權大納言實俊
たゆまりてせそたてをてしか　今出川前右大臣
たゆまてれたる神そ人をそ　好子内親王四條天皇
たゆてる我をこの春をもわ　二条院堀河
たゆるれうしこえつや年れはん　二条院親王
たゆなれ君と神とよ方法ふて　津守四条
たゆてをや荷れあとにたりえん　中京師光卿
たゆてそ代乃をしめれまたにを　為道朝臣
たゆてそ本そをこそ松或代の　芝原隆朝

新千賀奇
同賀奇
新続古
新拾
新千
新続古
新千
新拾
新続古離
新千
新拾
新続古

たなびくとゝうつしてもうつしもの代れば初瀬
たゝりあれとハ代よりたゝりなしかりき
たゝいらにとゝ重れば花ハ露あはれなり
たゝいゝ袖めせとゝ又ハ
たゝいゝ袖にて白たのうゝ
たゝいゝ袖るかしく神ようつゝ
たゝいゝ袖るゝ都にてゝ月ゝ
たゝいゝ袖して五のの月ゝ
たゝいゝ袖ゝ君にゝ
たゝいゝ袖ゝ涙
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ

仮西園寺公
宗家大臣
仮照会院
実自大臣
後仮仏寺公
宗実自大臣
宗大納言
法下宮宗
三三位宗
入道二条殿
基
仮光の宗
宗持改大臣
出口皇女
信生法師
読人不知
仮の法師

新千
新拾
新続古
新千
新拾
新続古
新千
新拾
新続古
同
新拾

むしたゝたゝ
打も袖ゝ
大えゝ
たゝ
別ゝ
神ゝ
ゝ
いゝ
やゝ
ゝ
たゝ
たゝ

たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ
たゝいゝ袖ゝ

宗中納言定家
権大納言義詮
右大臣
皇太后宮
安後
右大臣
真義
権中納言
貞教
権中納言
為重
宗親王
宗泰親王
宗長基世女
右京安

風体中
新拾遺
新拾遺
新続古
新拾遺
同
新続古
新拾遺
風中
新続古
同
風
新中
風
新中

はつ花とうとうしく
たい衣きてやうる月はこうてん　宣志庄文　文後拾
梅の花まさらぬ初し
たい衣ぬふらやさはる萩の花ちる　天武の有明
ひ来とうくにつまて
たい衣ぬるとてくれはて　菊秀歌
新古今　新勅撰
ひ暮てきふもやふ
たい衣きつるわ袖のもやうは　中文　五宗
ちいて秋やまいとふ
たい衣ぬきてい人ひとりとそうよ　民部卿
秋やうてやらん
たい衣日も夕暮ぬるひのゆ越　法下宗親
ひ来八月うやてん
たい衣日も夕暮ぬるやひ乃中心　善門法師
ちとれし波やちてん
たい衣ぬるの新乃水　孫法師
あさうれ夕付鳥そ
たい衣ぬるを別とをもやひん　武部卿　親王
変ら花とあうとそ
たい衣ぬるとうらんん　後撰和下
ちとれ波八同し
たい衣ぬるとてうやそひ秋し花ちる　久良親王

新続古
同
新続古
同
風
新中
風
賀

心ひの入日をこうんとて
たいもも西よりをとうんほとそみ　秋の法師
恨ちいて方んに三日ひ
たりと思ひ秋ちとりれ波ひうん　光俊朝臣
こうひしとうしてき花の
たいもとうる花ひさむき露れ秋よ　法印定家　製
ムほとあくと露はしさ君の
たいもとうるひ思ひ秋ひ君ひ　静信法師
君ひんあ思ひそうちを
たいもちてしあうとやひ秋ひ袖はひ　祝部成茂

置六十九首

新和歌類句集

よ

新子賀　[illegible]

新拾賀　[illegible]

新子賀　[illegible]

風賀　[illegible]

新拾賀　[illegible]

月賀　[illegible]

新後百夏　[illegible]

月賀　[illegible]

新後拾秋　[illegible]

新子秋下　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

新拾 秋下
月 延二
風 秋下
新後拾 名
新拾 延四
新古 延二
風 賀
月 延五
新古 賀
新千 雜中
風 雜下
月 補

をしむこかをしのあくかをに
ちりまてとあのこしのきしむしをの
うかくちりの庭のこすもしく庭
みのれつるもら葉に庭にうまれて
ちりのこりつくしのひとこと
をたあしの風のうたをるひとの面の
吹風に梅もあるはくるの代と
ちりくとうたをうたれしくるる
いと世をうたいつてもつ食ん
あちもの乃詠りのうてまを竹の
をしくたなしのうたのうの迎
ちりくるあしの人補のうたい

新千 雜上
風 名
新後拾 延二
新古 雜中
新拾 雜中
新古 延四
月 延五
新古 雜下
新後拾 延二
月 文
新古 名上
新古 延五

かとうれる味乃いりの代をうち
ちをなしもうあるの乃と薬
つまをふるこしの雪乃ちをれて
をくまれるみをうたるもう乃
ちらかてしらくとるを宿のこ
中くに多をの詩のりとれ水
とをくて五十九年ををにくわ
委詩のををいみちをゆるん
ひをれてをいね和をなかく風川
あるの多くるを詩よりこ祈かや
うちりたをちるる人を多をや
月日乃こ祈ををくるみ川

たをあぬかうをたをを風
たりりしをたを神とうる
たあるたしあるとをん
たあ実乃とわを
たるとをしの乃俗の下多
たをしをたしをしたをを
たすをうれ神るを神
をしをしのをいるあん
をのをあるをを如ん
をのりたにをるをん
ををみをるる中れりを

入をこ宗教を 永助
入をこ宗教を 寺四
後鳥羽院
源実朝卿
成恩寺関白 兼良公
今川貞 九大長
野福光
はや実夏
兼周 大同
成恩寺実白 兼良公
乃遠朝臣

風
名
新傳古
誠
新
巡二
新拾
雜中
新
長下
新拾
雜上
新傳古
巡五
日
巡一
新
雜上
月
巡二
新拾
巡三
新
雜中

めぐりあひて見しやそれとも
わかぬまに雲がくれにし
夜半の月かな
清浦院
うしとやなれいたくなぶるもの
なれやあるあるかの
清浦院
なるかの
清浦院
なるかの
清浦院
な

新拾 秋下
七月のなかのあにさこゆわ
後人不知

新千 雜中
うさまつ いまにつたへたる竹の
源邦長朝臣

月 雜下
見川乃山面りさせるたく乃ゆか
垣内法師

月 雜上
ゆすの水いかなるをほるくしとに
後宇多院御製

新後拾 雜下
一ちにはもしさいのうらなた
為家高雅

新拾 雜中
うきを愛うかぬをみまかつ乃
俊成卿

新後拾 雜下
今まてをのもいてゝ老ゝ乃
三善為連

新拾 雜中
とてゝゝ我ゝつてゝゝもし
大江高房

風 巡立
人ゝゝゝたちにゝゝゝ
経任威親

新拾 雜上
和ゝゝたゝゝのかゝゝゝ
雅世卿

月 雜下
ゝたゝゝゝゝゝゝゝ
後鳥羽院

月 秋下
保りて月新しかたき乃
中書王家持

新千 秋上
ゝ乃ゝゝゝたゝゝ
人丸

月 秋上
山風りゝゝ乃ゝゝゝゝ
よ

新拾 秋上
あけ行ゝゝも光をかゝまゝて
よ

新後拾 冬
村ゝゝゝれとゝゝゝゝゝ
よ

新後拾 雜上
見ゝゝゝゝ月乃ゝゝゝ
よ

新後拾 恋
いゝゝ野やゝゝゝゝゝゝ
よ

風 尺
いゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝ
よ

月 巡二
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
よ

新千 巡二
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よ

新後拾 秋上
たゝゝゝゝゝゝゝゝ
よ

新拾 雜
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よ

新後拾 雜中
新ゝゝ君ゝゝゝゝゝゝ
よ

新傳古 秋上
ふるさとの里の始の月
多くの涙いとしれぬ袖の露
月 雅中
新拾 尺
うとかねはいかに上ぬしあれ
新傳古 文
よのなかの花もちるなるよのなかの
新 巡二
つとしれぬ月をしたしみて
新傳古 雅下
九重の雲のうへ行ふるねは
月 雅中
ちるを我もてまの袖かをく
新後拾 雅春
もとれはむ涙ふるてをてめて
新 雅上
もう神の風ふるるや神をたに
新傳古 秋上
かりあしのうしろわいはたまの
月 春上
ひとりてふるをしはたとふる方も
新 巡四
今もんとあめ一人ふるるて

中国入を前 大臣大長
後伯宮を通後
二条殿を光助
後伯宮を雅世
後小松院 御製
二条殿を雅氏
後三条定久
後八条入を 右四大臣
陽明殿を
黄門五条 為敦

新後拾 巡一
月 雅下
新傳古 春上
新拾 雅上
新傳古 雅上
風 文
新後拾 秋上
風 雅上
新後拾 雅下
月 巡一
新拾 巡一
新後拾 春上

いつ春をうつれやをそにかをるらん
祈うる貴のしるしなりけるは
新傳古 春上
なのはるのふうえよあわをして
新拾 雅上
をうはるるをよあるをてめて
新傳古 雅上
うるかとはをうにはんてあまをの
風 文
浦ふかををうてはるるやを
新後拾 秋上
ふるるて月よあらをふるをるの
風 雅上
つまをの夕井ふをのかるを寺
新後拾 雅下
為れあにるけるるこう世中を
月 巡一
をにはまふををれるるつ井にや
新拾 巡一
ふるるあるまの山よはとあるの
新後拾 春上
ををてんるはあるもをるを

元可法師
英傳忠道 基
英傳忠景 後
英傳忠 近衛
逆入をあるト
徽安門院 字和
右京風徳
右京景徳
中雅十師
寒嶋院贈 右大臣
後二位安隆
後三位定久
はを定為

新撰古 巡二
新子 尺
風 文
あくれば花のつりかるかたちをかの
いとなきつひとるはるをいさて
をつの松さかものかをかのみをて

新撰古 長下
新子 文
立ちまれしうまの孫をひとれぬい
独りをしー首乃ひとこをつ人をも

月 長下
白をとかるまもいをーー心ひらー
新拾 雜中
かるゆ中ぬ行てとをみなるー

月 巡一
ゆえをあるあるを松心乃をたるもも
風 巡二
山をしの四をーーてるはに

新撰古 冬
をみの海の月を里れるるを
新拾 文
るるをやを海の心を井るをの

月 巡二
四中をとれ心をれさまかみ

ととるる人を見さるん
山陽入道前左大臣
にるるさぬのるれとのを
西行法師
にの四行を心をけ心
英四郎左衛門尉
にるるしれ花のもかけ
中納言入道藤原定家卿
にみりれ彩のらを
寺物院殿左大臣
にみる立るるをを
英四郎兵衛尉
にを心れをを人海
中納言入道藤原定家卿
にるるみるるの海
原光明
にもるるるのおを人
永福門院
にをにもるるをの心を
宗尊親王
にを心るるを金のを
後醍醐院御製
にを人れを中をを
法皇定家

新後拾 文
庭乃面を海をーー水をいるをもて
月 雜長
るるを心るれ乃るるるるるる
風 冬
海をるる形るれ松いをををせる
新撰古 巡四
るるるを多海乃ををいるるて
新後拾 雜
風をしるるるるを花をるる
新撰古 長下
るるるれ花乃ををを風乃り
風 長中
風をいを花のあるるいるをる
新子 巡二
我中を乃ををるるみを草ー井る
月 長下
るるるて立るるる海の心るる
新後拾 別
今るをいを行まるるる風を
風 雜下
るを人を為いるるるをを形て
新拾 哀
るるれ風れれれーるを春れ別海を

後二条院隆
原冷泉
後二条院
英四郎左衛門尉
平宗宣朝臣
建礼門院右京大夫
四日左大臣
従大四位五明
常盤の女王
院冷泉
後宇多院
亭和典侍

風 秋上
新拾 巡二
月 巡二
月 秋下
新拾 恋下
風 冬
月 雜下
新後古 秋上
新 巡四
新後古 秋下
新 雜上
新拾 秋下

つとかはしてをれしに夫乃月
遥すもこゝろ[illegible]さにる波乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新古 雜中
月 尺
新後拾 雜下
月 雜上
新拾 雜中
月 秋上
新續古 雜中
新古 雜下
風 雜下
新古 春
月 巡二
新拾 雜中

方式とていたりみをれし心もて
ものとなしこの月をなつかしき
けりとていとしもそこに中ちくり
もてやすらのつぬ物をもと
多くの人こゝろのかぎりをつくす
雪のたまこゝのうへの雪かなと
つわこゝの音はいかにしんん
しこまりたとうとてかくを
やまちの人のうれはなりけ
ものとうへ者にとうさまをして
もとうの海のうめのかをとて
おさまる浪のうへの風よ

風 秋中
新後拾 春
月 夏
新續古 夏
新拾 雜下
新續古 巡三
新後拾 秋下
新續古 秋上
風 夏

秋いて萩のうへをふる風の音より
ものかの式とうへ人よりはうとて
我やとのそれとも花をかくまて
いてくるとこの式なくまて
立田山秋のつゆをもてのうへ
のうへのうへをもはぬつゝ
うへとこのうへのつゆを月にをうけて
月新もなく式方にしめと萩の花に
のうへのこゝろをまみこゝて
多くをとはるの風のうへして
うへ火をとて春のうへして
ものをぬ人をやとのうへの

後久我前太政大臣
宗賢門院
中宮大夫
天慶御製
中宮大夫
前内大臣
藤原定家
儀同三司
藤公右大臣
後院新宰相
皇太后宮大夫俊成
藤原定家

風 夏
月 夏
新後拾 秋上
月 冬
新古 秋下
月 秋下
新拾 秋下
新後拾 秋下
月 秋上
月 秋
風 秋下
月 秋
新後拾 秋上
新後拾 秋上
月 秋上
月 秋上
新後拾 秋上
風 秋上
新後拾 秋上
月 秋上
新後拾 秋上
月 秋上
新後拾 秋上
月

新拾 雜上
新拾 春下
月 春下
新子 春上
月 春上
新續古 冬
新子 春下
新拾 冬
風 雜下
日 雜上
新子 巡一
月 秋下

新拾 巡五
新續古 巡二
新子 夏
新續古 春上
新子 夏
風 秋下
新續古 夏
新拾 雜下
新拾 秋下
新續古 雜中
新子 夏
風 秋中
新拾 雜下
新拾 秋下
新續古 雜中

風 雜中　夜ふけぬとみるよりはやもかたぶくを
新古 雜上　慈円　たれかはこの月をもてあそびし
風 秋上　玉葉　ながめてもこの月のかげのすみぬる
新拾 冬　なほ雪ふりぬとみえしはつ夜哉　藤原為家

二百三十首

ちるかぬ夜はよもあけぬれば　後人不知
ちるかぬ夜の雪もつもれば　後人四十五季
ちるかぬ夜の月のかげ　藤原家隆
ちるかぬ夜の雪のしらぬ　正三位家隆

新古 秋下　たれ人のよろづのこころ雲の
風 雜上　ゆくすゑ　夜の月こそ
風 雜中　忘れぬ形見なれ
新拾 雜上　おもく風の音やあるらん
新後拾 雜長
新拾 雜上　心なき人の
風 雜中　なほ人はあはれとおもはせて
新拾 春
新古 雜上　見ぬ世のあはれ
新拾 恋五
新古 雜上　ちりにけるとこの春の花
風 雜上　ちるはなさくこの春の
風 雜中　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の
新拾 雜上　ちるはなさくこの春の

新後拾遺 尺 風

ゆくすゑのかぎりもしらぬ
ものなれば
ちとせをかけて
ながらへんとぞ
おもふ

皇后宮大夫 俊成

新後拾遺 雜下

あきの夜の
ながきをかこち
ねをのこす
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後拾遺 雜上

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新拾遺 雜中

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

月 雜上

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

月 雜中

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

風 雜上

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新拾遺 文

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新拾遺 雜

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

月 雜

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後拾遺 別

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新拾遺 雜上 風 旅

あきの
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後拾遺 秋上

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新拾遺 冬

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後拾遺 雜下

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後拾遺 雜秋

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

月 恋四

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後拾遺 文

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新拾遺 文

ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ
ものとなりぬ

藤内侍

新後古 春上
よやてくるあるてしたれん梅の花
行ひてあてはるるもとあるころを
新後拾 雑
新後古 巻二
つまのとしひていさけとかさるは
新千 春
きしてし焼の赤はをけし
新後拾 秋上
ちるかとうきてねるきれ
新拾 秋上
新後拾 秋上
新後拾 秋上
月 文
新千 賀
新後古 巻二
新後拾 冬
新千 秋下
風 雜下
もちろん神をうるまひよ　行基菩薩
もちろる屋に人もつさて　持明院基俊
もちろるまてもるたちさの　藤原俊成
もちてふるとれるくされ心　後鳥羽院御製
もちてふひ代ゆる月と　後鳥羽院
もちて散かてうの人は秋　入道太政大臣
もちてかりうきはちの　法印尊円
もちかる帝代と野の　藤原朝臣
もちかるあいをはは　藤原俊成
もちかれてあもちなるの　藤原定家
もちまし神の宮かとうる　常陸井入道
もちまいかとるか花世に　藤原定長

新後拾 旅
月 秋下
新千 誹
新後古 巻四
風 雜下
新後拾 雜上
新千 冬
新後拾 春下
新千 春下
風 雜上
月 冬
新後古 文
いさけをうかさの落ちる
かりあさちをあよ心あれ
あけさはしちるるをとこ
やそ九月あるうる落ちる
人のさの人の焼ふれを
こ乃元おる浮をくはけに
あるめとをむちちに花の波
よれ心をのはて散ぬし
咲はくあれしはてれさみて
あちるむ宮にのねいたの庭
新日はと新てれ宮ろ消て
もう宮のなてこ乃花咲まわ
もちて心海に寄ちくと元
もちる神をを三れ
もちるめはをに波の
もちをしあ神の
もちをとしな釣かとみの
もちをとて年ろ落ち
もちをのりてあの皇を
もちをはるね光れて
もちひそ三ひむ心年新
もちひ乃まよるる水
もりてひとあみそんまの
持明院基俊
頼人不知
後鳥羽院
宗尊親王
中務卿宗尊親王
後嵯峨院
花園左大臣
伏見院
源重之
正二位隆教
太上天皇
藤原定道
中務卿

彩松 巡一
新千 文
月 雅中
新後古 秋下
新夕 春
彩松 雅上
新後古 雅中
月 冬
彩夕 秋上
彩松 巡四
月 雅中
新後拾 冬

彩夕 巡三
新後拾 巡一
彩夕 巡三
風 恋上
新後古 恋上
彩後拾 文
彩夕 哀
月 秋上
彩後古 巡二
月 巡四
新拾 雅上
彩後拾 尺

風
尺

新撰古
雜中

風
雜下

新古
春上

月
春下

新拾
秋上

新撰古
秋上

風
雜上

月
雜下

新拾
夏

新撰古
巫五

月
巫三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風 春中
新後拾 秋上
新拾 秋下
新千 春上
新続 雜上
新千 雜上
新後拾 秋上
月 巡一
風 雜下
新後拾 巡三
新千 巡四
新後拾 秋上
風 巡二
新千 春上
新後拾 神
月 尺
風 秋上
月 巡一
新後拾 秋上
月 別
新後拾 冬
新拾 冬
新千 冬
風 冬
新後拾 秋上

うゑおけやえうの菊をたてまつりける
菊をとる
ちにふるさとをみるとてこのかの
菊の心のあきのよの月
四宮河原の
入り日をよくゝそこにふるまひて
菊の心のうつるのみにて
茅渟院製
あきの海のほとりの花さかりなるわ
菊の方を
新千 春上
新続 雜上
菊海のほとりにあれにけるもの
三喜資連
新千 巡四
見むとのまわとくやよりてまちくい
兵部卿隆親
人しれぬうらのいたづらを
後人不知
月 巡一
風 雜下
今を限をあはとおもふれしさを
玉陽宮成
新後拾 秋上
うゑもしかるみよしのゝたなびき
惟宗光吉卿
新千 巡三
ひとりなれるあるつゝをれる
入道三宮親王
新千 巡四
ゆふ風のみをれてきん
道助
新後拾 秋上
つゝかれるしれるをいとり
ゆふぬさ
中納言
風 巡二
秋のあにはたゝまをいとなを
後鳥羽院御製

ゆふの心のあきにはかを
菊をとる
ちにふるさとをみるとてこのかの
菊の心のあきのよの月
四宮河原の
入り日をよくゝそこにふるまひて
菊の心のうつるのみにて
茅渟院製
あきの海のほとりの花さかりなるわ
菊の方を
ゆふまてにうゑおけるもの
三喜資連
ゆふまてにもゝかゝゆと
兵部卿隆親
ゆふ海こゝろの上しをるゝ
後人不知
ゆふ海こゝろてをるゝすん
玉陽宮成
ゆふ山ゝわれ波なるん
惟宗光吉卿
ゆふ風のみをれてきん
入道三宮親王
ゆふぬさ
中納言
ゆふさかるゝのとゝもしぬん
後鳥羽院御製

ゆふの海のほとりの花さかりなるわ
菊の方を
ゆふまてにうゑおけるもの
三喜資連
ゆふまてにもゝかゝゆと
兵部卿隆親
ゆふ海こゝろの上しをるゝ
後人不知
ゆふ海こゝろてをるゝすん
玉陽宮成
ゆふ山ゝわれ波なるん
惟宗光吉卿
ゆふ風のみをれてきん
入道三宮親王
ゆふぬさ
中納言
ゆふさかるゝのとゝもしぬん
後鳥羽院御製

ゆふの海のほとりの花さかりなるわ
菊の方を
ゆふまてにうゑおけるもの
三喜資連
ゆふまてにもゝかゝゆと
兵部卿隆親
ゆふ海こゝろの上しをるゝ
後人不知
ゆふ海こゝろてをるゝすん
玉陽宮成
ゆふ山ゝわれ波なるん
惟宗光吉卿
ゆふ風のみをれてきん
入道三宮親王
ゆふぬさ
中納言
ゆふさかるゝのとゝもしぬん
後鳥羽院御製

ゆふの海のほとりの花さかりなるわ
菊の方を
ゆふまてにうゑおけるもの
三喜資連
ゆふまてにもゝかゝゆと
兵部卿隆親
ゆふ海こゝろの上しをるゝ
後人不知
ゆふ海こゝろてをるゝすん
玉陽宮成
ゆふ山ゝわれ波なるん
惟宗光吉卿
ゆふ風のみをれてきん
入道三宮親王
ゆふぬさ
中納言
ゆふさかるゝのとゝもしぬん
後鳥羽院御製

ゆふの海のほとりの花さかりなるわ
菊の方を
ゆふまてにうゑおけるもの
三喜資連
ゆふまてにもゝかゝゆと
兵部卿隆親
ゆふ海こゝろの上しをるゝ
後人不知
ゆふ海こゝろてをるゝすん
玉陽宮成
ゆふ山ゝわれ波なるん
惟宗光吉卿
ゆふ風のみをれてきん
入道三宮親王
ゆふぬさ
中納言
ゆふさかるゝのとゝもしぬん
後鳥羽院御製

新後拾二
月 雅上
新々 文
新續古 文
風 雅下
新々 雅下
新拾三
新續古 文
新々 拾
月 尺
新後拾 秋上
風 尺

新後拾 尺
新續古 冬
新後拾 冬
新々 秋上
新後拾 雅秋
風 雅下
月 雅上
月 雅中
新後拾 拾二
風 拾三
新拾 雅中
新後拾 拾五

風 五一
いとかなしかりしもいとかなしかりしもいとかなしかりしもい

新拾 雜中
秋方に[illegible]
[illegible]

新千 雜下 月 秋下
[illegible]
月新の[illegible]

新後拾 雜秋
秋をへて[illegible]

新續古 雜中
[illegible]

新千 秋下 月 尺
[illegible]

新續古 秋下 風 尺
[illegible]

新千 冬
[illegible]

新拾 巡四
[illegible]

新千 巡一
[illegible]

[illegible]

新續古 巡二 風 文
[illegible]

新後拾 雜下 風 書中
[illegible]

月 巡二
[illegible]

新續古 秋上
[illegible]

新後拾 雜下
[illegible]

新續古 離
[illegible]

新拾 雜中
[illegible]

新續古 書上 新千 巡二 月 巡一
[illegible]

風冬

新古今尺

世にふるもさらしなやまのこしたみち
なほ月のゆふかげさやかなれど人の
心の秋かぜぞふく

新撰古歌

風

春上

新拾遺

文

うらみわびうらくるるもいとはじ
七夕のうらくるるまちてをとこ
をとこ年の八しをかぞふる

新古今

秋上

新拾遺

秋下

ふるさとの八しをかぞふる
ふるさとの八しをかぞふる

新古今

春上

風冬

雪ふりてかきくもりたる夜の雨に
うるふの年の暮の新しをみるに

月

春中

新拾遺

春下

新後拾遺

雲ふりてかきくもりたる夜の雨に
うるふの年の暮の新しをみるに
つれなくてふるしまの人いもしむに
あはぬ人をいとはしとおもふ
なとてかはるとあれとあれて
なとてかはるとあれとあれて
なとてかはるとあれとあれて

新拾 秋上
乙乃川ら音さこゆるこゝろ
久しくなるまの川音をわとらや
月 秋上
なれしかたとうきなくつゆぬと
新撰古 雜上
あをとうこゝろ
新後拾 雜秋
新撰古 立九
さらぬあうらけるふかとみ
新拾 雜
さくにてあやさいたこゝをの
風 雜中
ちりのかうをたあたしくをて
新拾 雜上
住るゆきうをきれこゝをて
新撰古 立二
あのまれのふにちてたゆの
月 雜
ふしあさらとゝ作せてこゝに
新後拾 雜
あさつれくゆれうえにあてなわ
新子 立三
いはまてのゆちとてゝい行とを

新拾 立三
なれさらとのこゝの家のこゝを
新後拾 立四
ゝゝらと思ゝ行をいゝ行ゝ年
新子 雜
ゆゝもしらぬたゝくゝ心をして
新撰古 立二
ゆゝ行一世よあゝとゝ行ゝ
月 立二
ゝもつもえゝゝゝゝゝゝ
新子 立三
いたゝゝをゝ行ゝゝゝ
月 雜下
ゝゝをゝ思ゝゝゝゝ
新後拾 雜
ゝゝこゝ思ゝゝゝゝ
新拾 春
思ゝてゝゝ行ゝゝ
風 立二
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
新撰古 雜上
たゝゝに行ゝゝゝゝ
新後拾 立三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ 賀茂雅久
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 為定卿
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 三条入道太政大臣
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 平師氏
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 摩訶院權僧正隆尚
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 乃貞朝臣
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 兼好法師
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 權僧正定
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 僧正隆尚
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 僧正慶雅
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 後二條院御製

新撰古 亦
月 離
月 立四
新後拾 亦
新拾 書上
新撰古 飛下
新子 尺
新撰古 立四
新子 立三
新拾 飛下
新子 立三
新撰古 立三

ひとたびていとかうしてて
海心乃宮のいとをかしきことを
ちらして人乃のちてるりきい
一ちらに世けかるれとみるる亦
まちしよのおほろ月乃ゆるるを
うしろるれ乃とかうれしてもて
一ちりよ三乃ろてあるとたた
月人てもるくむ方そるるとけか
いろやみめくちけよ月人てまて
ものしてろ乃みちしかは
ものしつやるしのうるん
ものしみてきてしてのきか俺
ものしてとしかきは亦月人て
ものしてう乃しさてしの人の奇
ものまぬかくや乃まてんしまん
ものまぬよみの三月乃て
ものまぬ中に乃こうかをけ
ものかいくとてしつわて
ものぬ月乃新てるるに
ものぬ音と思ひまして

はて静賀
後人不知
二月新撰之定部
後四園与入道
前太政大臣
後四園与入道
前太政大臣
後四条前
内大臣
九条右大臣
孫宇内新撰之
後三条右
内大臣

風 立二
新後拾 立三
新子 文
風 立二
新撰古 立三
新後拾 立三
新撰古 立
新拾 立三
新後拾 立三
新子 立四
風 立二
新子 立二

とうてもなるよのけるまりうた
ものこていてく別乃うた中り
かくもはいるるとてゆるれを
とし乃亦宮をいくやとてう春
いとくとりわうせちなしるとに
人をまちといくくうなるとにけか
ほくてくていけるちにれわれを
そるりやあいたるれなし世て
あけぬとをとりうみるしさるよ
あとう川にてぬ中と乃るとにまわ
乃し人をけうれつとなしるくよ
人をなしやとうんかれ世の

新撰古
友人右
前中書王
進士内新
梅名院入道
内大臣
監令尚
修三位保重
前中書王
惟宗行光
前中書王雅
永福門院
西園寺内大臣

新拾遺 五三
世中よのなかてはいとうわれるとせい　後人和歌　後四条中納言
新拾遺 五三
よてうたいてうとなりなわ　後四条中納言　亀山院製
新古今 恋
しとなもしのいるこてうのれをうてて　後四条中納言　建性法師
新拾遺 五二
乃しの世とそれなよ為とおもをない
月 五三
はいりれのこすえ中たちなりても　宗仲法師
月 五下
ちとせとなくはるこうる行末も　後鳥羽院宋卿
風 五二
あけぬとてはくはるきるぬとあと　宣光門院新内侍
新撰古今 恋
なくうねらきをしとしてはは　従二位家隆
風 春下
心川とをくてうはよはるとれて　藤原院家
月 秋下
ゆこ心をのいれてをうれく　藤原俊定　文治
月 秋中
多多新さしくこある心をとの　後鳥羽院中納言典侍
新古今 秋下
風ているいれくうありをれて　藤原俊光

新拾遺 秋下
あのこねをくもこるむつき　後鳥羽院宋卿
風 秋中
あのこれかうはくうあのと　後四条中納言
新古今 恋
あのこれうこ雪のをてゆ　亀山院製
新拾遺 五二
あのこをこをこんもるこの　建性法師
月 五三
あのこるこいはなくこ言のこ　宗仲法師
月 五下
あのこんたまてあこうこはな　後鳥羽院宋卿
風 五二
あのこれゆたまもこあ　宣光門院新内侍
新撰古今 恋
あのこてもれいはとをこの　従二位家隆
風 春下
あのふこんてをこの　藤原院家
月 秋下
あのこのこれこのこうこの川要　藤原俊定　文治
月 秋中
あのこにこるかこの一こ　後鳥羽院中納言典侍
新古今 秋下
あのこの月の新こうこぬ　藤原俊光

新拾遺 秋下
月のこるこ心をとこくこ言こ　後鳥羽院宋卿
風 秋中
心をやいこの新こたをこ　後四条中納言
月 秋中
心をこの心このれまもこいくれよ　亀山院
新拾遺 五一
よこをこをあこいかたれ我要乃　後鳥羽院製
新古今 秋上
こいくよ始の草葉をを　藤原俊定
月 秋上
ちあいけるをれをこをはて　従二位家隆
風 秋下
くうれくて消ち始乃はとも　宗仲法師
月 秋
葉こはる変乃こいこ世こて　後鳥羽院宋卿
新拾遺 恋
乃こいる時乃ちを系こるくは　後四条中納言
新拾遺 秋上
ちをちをこをれこを花をて風こり　亀山院
新拾遺 春
草乃葉ををれこをる為れ消ぬはる　後鳥羽院宋卿
ちまかをこのこいをのこれ　人丸

風 雜上
新拾遺 秋上
月 秋下
新勅撰 秋
新古今 雜上
月 秋上
新拾遺 雜上
月 秋
新古今 秋下
新拾遺 秋
風 秋
月 雜上
新勅撰 秋上
新古今 恋三
月 秋上
風 秋中
月 雜
新古今 秋上
新拾遺 賀
新古今 雜
新拾遺 雜秋
風 雜上
新拾遺 秋上

雜体ことゝの葉にあらはれ侍りける

ゆふ暮れの雲にうつるかりがねの
なきわたるこゑ
月
なる雁をみちのくにゆくさい
草の原吹こゆるせのあらしに雲
白雲のむすびてもなほあまぎる
月
ふるとはなくもじきの夜のあけぬ
ものをすゝきの穂のまねくを
なる雷の夜にうつくしきよを
秋のくるやうゝしくなる
なるとよ月をひとりながめて
ふるさとゝ秋のこゝろの音せ
ものをひろとふるやてはらん

惟宗忠貞
後条院製
後人乃知
大江嘉重
はつ定乃
入道前太政大臣
後人不知
中務卿親王
進士頼之
定頼法師
前中宮
皇太后宗尊
後成

ものつゝるゆふかぜ
月新しもの
月
村雨ふるさとにたりもん
く秋のこゝろ
雲の秋風
月
ゆきゝ雲
をく雲の光もきえぬ雨ふ
草を本もるしくの代とい池の
ものをもたいにあるつゝ
雲りたういけさるつかの
のあとをのゝ
ものをとそやて
ものをあつたれを草や

ものつゝるゆふかぜ
ものにはあらしの
ものにはあらしの
ものにはあらしの

風 春上

梅のうめにほひをたづねてやうぐいす
のなくらむ人の心を

月 冬

ふりつもる雪の光をそへてこそ
月の色もいとさえまさるらめ

新古 冬

ゆきのうちにはるのこころをしるしとて
ちるはなのみかはるなりけり

新後拾 雜秋

あきのはつかぜふきぬれば
ちりまがふはなのなごりをしのぶ

新後拾 雜上

ちりぬるはなのかをしたづねて
ゆくはるをしのぶ

風 恋四

ちりのこるいとだにあるものを
はるかぜはなにとまりをしへよ

新後拾 恋四

はるかぜはなにとまりをしへよ
ちりのこるいとだにあるものを

新拾 雜中

ちりぬるはなのかをしたづねて
ゆくはるをしのぶ

風 恋三

ちりぬるはなのかをしたづねて
ゆくはるをしのぶ

新後拾 恋二

ちりぬるはなのかをしたづねて
ゆくはるをしのぶ

風 恋

なにのうれをかしらぬ人の
ものをおもふ

新拾 恋四

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

月 恋

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

新後拾 恋四

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

月 雜

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

新拾 雜上

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

新後拾 恋一

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

月 恋四

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

月 春下

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

新拾 恋一

ものをおもふ人のうへにかな
まれぬるくるしみをしるらむ

新撰古 赤
月 乗工
新子 尺
月 文

新 れ 乗工
新撰古 秋下
新 於 五四
新後拾 秋上
新 於 文

新撰古 乗工
新後拾 秋上
風 五四

新撰古 五四
新子 五二
風 秋下
新子 春下
月 五四
新子 五五
新撰古 五四
新後拾 五四
風 春下
月 乗中
新子 五五
月 五二

ゆくすえのこと葉のもとにまかせて
人をとはねばのうゝみなくゝるゝ
いろゝやどこのとゝ川のをゝ孔あう
をゝくゝたゝゝこれをゝ見よとにさゝ
秋乃ゝのきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
小倉山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

新 於 非
石清水の八幡の宮
月 玄一
もゝ神のまもりなるらんこゝの川
新撰於 玄一
なるるとふかまのみくまの山にかゝ
新子 玄三
君とさゝるみとされ心のかぎりあるを乃
月 雅上
心ちこゝのあるをとまれかるの
月 春上
みるのゝ花ちるかれ名をのゝ
新撰於 非
ちるに今花は梅乃えゝ一種
新子 玄一
うさえのゝ春の行かれ名をゝ
風 非
うこまたたくるにまるれ春の
新於 冬
山ちこゝまをとりてれるとゝ
月 雅中
都人きるぬいなたをとゝの
月 春上
春れるあさけれ風乃春羽川

もゝ
もゝ
もゝ

月 秋下
うくみふるしもつゆかれぬ月の
新拾 賀
見つゝ人をもせのまゝかさねゐる
新後拾 恋
袖にのれしらなみをうたかた
新千 雜中
うきかくにくゐをうけぬ世のうさの
新後拾 哀
今さらしかはかりかはもつゝさ世に
風 雜下
てわくらをとしきあつさ時をて
新後拾 雜下
十年のよわ世ゝをとゝ見なれ
新拾 賀
つゝ恵いとのをくらゝうゝとて
新千 雜中
世ゝをとゝ月のうらに
月 雜上
ゐめの見夢の見ぬ夜きてくれな
月 雜上
雜後こゝのつゝあるゝとゝこの
風 雜上
かはくゝをゝくゝにかわぬつゝ夜

ゐにさをゝ白菊の花　後人ゝ
ゐとゝ人ゝ八重櫻　仁和寺
ゐかさゝて世ゝの昔　法寺四条
ゐをゝくゝ雪ゝ　雪ゝ後隆教
ゐゝ月けゝ人ゝとゝ　権中納言雅俊
ゐに月のゝとしまゝ　太上天皇
ゐこゝとゝゝ月ゝ　光厳院製
ゐこの七ゝのまゝつゝ　法寺四条
ゐゝうゝとゝ月ゝうゝ　後院製
ゐゝ浪のゝ浪ゝ　出羽入道
ゐゝ浪のつゝ月ゝ　太政大臣
ゐゝ浪のゝゝ月ゝ　高階重茂

新後拾 夏
ゐゝ月のゝ浪のゝゝ月ゝ夜
風 賀
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
新千 雜二
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
月 雜中
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
風 恋四
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
新後拾 雜
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
月 夏
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
風 旅
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
新千 恋四
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
新後拾 冬
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
風 旅
ゐゝ月のゝ月ゝ　月
新後拾 旅
ゐゝ月のゝ月ゝ　月

ゐゝ月のゝ浪のゝゝ月ゝ夜　太政大臣
ゐゝ月のゝ月ゝ　院御所
ゐゝ月のゝ月ゝ　菊亭右大臣
ゐゝ月のゝ月ゝ　後嵯峨院御製
ゐゝ月のゝ月ゝ　仲
ゐゝ月のゝ月ゝ　菊亭右大臣
ゐゝ月のゝ月ゝ　後人ゝ
ゐゝ月のゝ月ゝ　後鳥羽院御製
ゐゝ月のゝ月ゝ　後八条入道前内大臣
ゐゝ月のゝ月ゝ　後八条入道前内大臣
ゐゝ月のゝ月ゝ　後人ゝ

新秋霧　ゐるたにかふあもちいりさ形ん　藤原俊成

新後古友　いとゝろれ雲人乃ゑ草ゑ式とれて　後三條院家

新秋霧　れてとひとれんとてもいとゝせん　前大納言為

風雜　あまつかさ海ゑ乃久ゑ雲よ　後人ゑ忘

新後古霧　いとゝゝるけ一ゑ無仏ゑ月　僧基俊

風秋下　さゝゝいとゑゝしゆゝれてゝるの　後四条大納言

月雜　ゆさとれ夜ゝうとゝゝ花　正三位俊安

新後古霧　ゑ乃の月新んれとゝ花ゝる　中書王師

月霧　ゝゝゝゝたに月一ゝれを　山家法師

新秋霧　ふゝれ行ゝゝれゝゝにゝゝみよ　前摂政太政大臣

新冬　ゑ人乃ゝよれ行ゝの乃新草　俊恵法師

新後古秋上　萩乃ゝ考を乃れゝゝゝ　山家法師

新後古一　ゝれゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　久良親王

月賀　いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ夜　前摂政

四百廿四首

新和歌類句集

よ

風賀

みつの山吳竹のうら松日新年に合てあ

冷泉前右衛門督

新千歌

色こゆる松乃いとをとゝのへてわかの浦書

御製

新拾歌

ほとゝぎす花をうゝ枝にとゝのへて九重八

慶日

十四乃巻とゝのへつゝ松殺ゆるはゝ久

太上天皇

新後古今上

ゆるゝ乃ゝ巻とゝのへて望ゝて歌乃ゝ巻

左大臣

月賀

ゆるゝめ色ゝ松よりゝ

作者未詳

月賀

ゆるゝ乃ゝ巻

左大臣

新拾歌

神山乃ゝとゝ乃ゝ巻

前中納言匡房

新千歌

ゆるゝ乃ゝ巻

藤原為家卿

新拾賀

ゆるゝ乃ゝ巻とゝのへ吹風乃音ゝ聞ゝ

新千巻
しら田風河みさ川乃ちまの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風雅
彩千 忘三
新拾 春
同 雅上
彩拾 忘三
新後拾 恋上
同 恋五
同 雅上
彩千 春
新拾 恋
新後拾 秋上
同 秋上

あきとみるかのこまりかてぬ
よはの人 配流歌
衣うちのふるさとにやまちよる秋
よはの秋を 九条左大臣女
思ひ河ながれもあへぬ涙のみ
よはの月 藤原俊成卿
ふるさとの秋の月にて西の海
よはの月 小侍従
ふるさとの秋の月にて西の海
よはの月 大炊御門右大臣
ふるさとの秋の月にて西の海
よはの月 従四位為忠
もろかたる衣ぬぎ忘ねたりかけ
よはの月 藤原定家卿
西の海にわたしみよなくて秋あつて
よはの月 従五位下為氏
なつ月や焼ぬ〻みをかくしてあつ
よはの月 藤原定家卿
中なかにかりにたちとまりの
よはの月 皇太后宮大夫俊成
袖よりそふ〻さとのたちの
よはの月 藤原公任朝臣
かけよりあまのつりをぶねの
よはの月 今上御製
あけよりあまのつりをぶねの
よはの月 藤原俊成卿

月 秋上
同 雅中
新千 交
月 交
風 忘二
彩拾 雅
新続古 夏
新千 雅
彩拾 雅
新続古 冬
風 恋上
同 秋下

さゝ〻ゆかてて山のはにいでぬ
よはの月 源之宗卿
いつ〻へと思へはかなしいとゝ
よはの秋を 平貞行
なれはあるかなしかりしの秋の
よはの秋を 藤原為光
ふるさとの秋の月にて
よはの秋を 平維貞卿
ふるさとやかたらはせまし人こそ
よはのうを 従三位為子
なつかしとわたれとてとはつてあね
よはの月 松風
心あ〻へ秋とゝへてなけ鄙人の
よはの秋を 武尼郎有盛 家光将
風おとしさしもあもれとなつ
よはの舟人 従二位親定卿
東枕虎ふしてなつかしく
よはの家の 源業氏
水鳥なきの〇とをとゝ
よはのうを 前大納言為忠
新れ梅ハな枕ふしてなつ
よはの風 前大納言為氏
ふるさとの月ハさゝ〻山の端
よはの秋色 万秋門院

新千 秋上
天川月のみつるにしたがひて
月 恋二
ながめ入ぬるかとおもふまで
新拾 秋上
さそひたく月よりかぜのふきぬれば
新後拾 雜上
泊瀬山月よさしいでぬ
新拾 恋二
恋ゆゑ神の御ことをかけまくも
月 雜下和
恐るるかぎりなきかなしさ
新拾 秋下
あさぢふのつゆとまやのこの月
新後拾 恋四
とりのこゑかなしかりしあけがた
新千 恋一
この子はいかなる神とみえしきて
新後拾 物名
冬ごもりとぢてし氷はたがこころ
新千 雜上
海せよわが袖にかけてゆかばやと
新拾 雜上
都をさきだてまかりくだるや
よいたはるせ
後人今もと
よいたはるせ
遍法法師
よいたはるせ
源経氏
よいたはるせ
芝木曲経弘
よいたはるせ
源頼政
よいたはるせ
皇太后宮大夫俊成
よいたはるせ
源宰相中将
よいたはるせ
平宗宣
よいたはるせ
皇太后宮大夫俊成
よいたはるせ
藤定法親王
よいたはるせ
博基法師
よいたはるせ
大宰権帥為経

新拾 秋上
いくたびかゆきかへりてもとどまれる
新千 恋三
恋ゆゑ人の心にかけぬ
新後拾 恋四
かりのやどりこそ思ひしれ
風 冬
夕ぎりのたちやこめんとかりのやど
風 恋三
かりのやどのあるかなきかに
新後拾 雜上
あくがれ人のこころをとどめ
新千 雜下
九重やかりの宿をとどめて
新後拾 恋五
恋ゆゑ山なる月のかたぶくまで
風 恋三
人心ゆゑ
月 雜中
みなれぬ人のこころをとどめ
新拾 恋四
ふるさとの変りはてぬるかなしさ
新千 哀
風吹ぬ花ぞ散ぬる
よいたはるせ
後白河院
よいたはるせ
源頼政
よいたはるせ
藤安門院
よいたはるせ
東道法師
よいたはるせ
法勝寺別当
よいたはるせ
後鳥羽院
よいたはるせ
後鳥羽院女房
よいたはるせ
後鳥羽院

鳳 雲上
彩指 意コ
鳳 意二
新続古 雜下
同 雜中
鳳 秋上
同 雜下
彩千 尺
新拾遺 雜下
彩続古 雜上
彩指 意三
鳳 雜下

みなの人のてにいるる松風のこゑをたつねてとはるるをとてもあるかなきものかれ
われのかるる人をたのもるるのもまつ山の雲
なをあるものを高山をへだてて又かさまれる
こゑをたに物のあるまあるとしまし
めしくあるをしらみ人をなかめみまほしき
なかるくはるるをうとくまつ山をへて
数なるあるをのあるかはるて舟れはるるや
今はもの山とたにを姫月出くるくるし
人をたれ和歌浦をなくあるをあはるる
うるはしきをとをなのまれをたるの
みなの人のはるのあるをあるをあるをあるぬ

よしのをし 左中将宣
よるるを人 伊勢流出家
よるて男へ 新古今流医
よるをあるる 源重信
よるるをし 中宮定家母
よるをはる 伊勢
よるつをや 菅原時雨
よるつをまて 法中正祐
よるるん 摂政家歌合
よるをや 源経之作
よるをあ 前大納言定
よるをれ 中務宗親

彩千 祐
鳳 雲上
同 祐祇
新拾 雜中
彩千 雜中
新拾 雜中
同 旋頭
彩千 芳
鳳 交
同 雜下
同 天歌
彩千 交
鳳 雜上

天原あるを岩戸の祐の山日つさるぬ
山の陰を出る紅日はをしのをとをあるはる
雲あるるあるの月石清水をてをかれの
わるるるに月をみて指舟をつるの人のるれ
さるわるるるれるの月をるるるるの
彩色川浮木にるるるる雲城をるるるる
るるるるるるて月舟を沢を川るる
五月雨に岩瀬柳枝のるて物をわるる歌
なるる歌色をけるる物をるるの人のるるぬ
みなの人をるるんと男をるるるるるるや
五月雨をたのしるるるるるるるるるる
みるれて雲をけるるみるる五月雨に松てのるれる

二条院歌合遠
仁安国歌大
仁安院歌合
歌合為歌
校紙色紙志
後拾遺作
入道宗教
三後隆歌
前中納言為相
九川舟
三後隆歌
九川舟
歌合清輝作
九川舟
清輝国友

同 雅中
彰考館 新上
同 雅中
彰千 忘二
彰指 雅下地
彰千 忘一
彰指 忘二
彰後古 氷紙
新指 雅中
同 雅中
新仮指 雅上
彰後古 忘二

いつ孤まで乃海風吹よりたゝ
舟よりて学ぶ海宿をるとき月を取まち
彰ゆく思をてゝ山さとれ
しるさ乃名たのうれ公ハまよ
水いたまれ乃ちらくわちたりいかさいふ
あ丶まれ波乃神れ学をしるさるハ人乃
思ひうちれ川出てゝうん鬼れ舟と
ゝこうへよ者をあゝやをてさ可う海れまれ
住吉れ風れ吹きゝかいみちけ志乃
ほくとう経よむしさ今ハ行のつれのさきハ
みゝくなる玉て学も和乃の風を風つとく
ゝ糸れ乃てゝ星ハ名れて色をねえれ

さ可ゝ
雅中
彰千 忘二
彰指 雅下地
彰千 忘一
彰指 忘二
彰後古 氷紙
新指 雅中
同 雅中
新仮指 雅上
彰後古 忘二

蔡朝村
校注 紀寛記
校注 杉浦
玉津 清水
源相房
清水国道
後後形改
読人知
校注 紀寛記
読人知
校注 紀寛記

れつき稲
ゝやなん
ゝ乃れて
ゝ海さるん
ゝ人ゝ
ゝやと
ゝれくと
ゝ学てゝん
ゝ見
ゝ学
ゝ学乃可
ゝれ乃

彰指 雅下地
同 鬱
彰千 雅中
新後古 忘一
新仮指 忘五
新後古 冬
新千 雅下
彰仮指 雅下
同 雅上
彰千 尺
彰仮指 非
同 氷

約月と学を山れ乃梶れ乃さ乃れ波の
ゝくいてゝくこいをきみなるあ波宿の
思ゝやをてを乃ゝ一つ乃ゝ乃れ
忘衣をれ乃ゝ君とゝ乃ゝ
恨のゝ乃れ雅波れをれ
ゝ波や宿乃山風さゆ乃日ハみきハこゝて
う乃ゝてゝしきもそみれ
美可ゝハみてさ可ゝれ
八千まてゝ乃ゝれゝよゝへて人ゝ乃ゝ
ゝれこみてゝ心乃玉れ
神れゝ一夜れ松乃みゝ乃縄り也てを
非ゝれ松と梯とゝれ可ゝ乃ゝれ

読人知
校注 杉浦
光明寺
新校注 大系
校注 紀寛記
校注 紀寛記
清水国道
校注 紀寛記
清水国道
校注 紀寛記
清水国道
校注 紀寛記
清水国道
清水国久

新後拾 賀
あしはらの雪を月日にあてゝ歌ゆかん
よとぞ思ふ 赤大伝三蔵院

日 赤紙
雪をみよ今日のふる雪はいとゝ
そこの川屋毛の宿なりかもの
よとぞ思ふ 分秦雅有

新千 赤
雪やこの世ゝ人ゝとして
よとぞ思ふ 院御製

新後拾 神
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 俊兄院御製

風 新中
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 検中納言俊実

新後拾 新上
ゆゝしき世ゝ人ゝとして
よとぞ思ふ 性厳法師

新後拾 新中
ゆゝしき世ゝ人ゝとして
よとぞ思ふ 二条為信

新千 新下
ゆゝしき世ゝ人ゝとして
よとぞ思ふ 源教貞

日 新下
ゆゝしき世ゝ人ゝとして
よとぞ思ふ 紀ノ名院御製

新後拾 新上
昔の紅葉の人ゝとして
よとぞ思ふ 俊三宮伊

日 新秋
紅葉の人ゝとして
よとぞ思ふ 源和義朝臣

新後拾 新中
紅葉の人ゝとして
よとぞ思ふ 藤原公遠

新後拾 雜中
如をしらぬ木の陰ゆゝしきとて
よとぞ思ふ 赤大伝三蔵院

日 新
あはれ世ゝ人ゝとして
よとぞ思ふ 分秦雅有

日 忘二
いとゝ深の衣ゝとして
よとぞ思ふ 三条信成国

新後拾 新上
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 法印秀長

風 新下
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 御子四親王

新後拾 新下
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 定弘法師

新後拾 尺
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 菅原登治

新千 新上
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 伯秀房

日 忘三
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 俊兄院御製

新後拾 条
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 秦流家経安

新後拾 新下
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 道雅法師

風 新下
月にこゝろをとゝめてこそ
よとぞ思ふ 永陽院左京大夫

彰千
赤

新後古
赤紙

新千
雜上

彰拾遺
交

風
雜下

月
交

彰後古
恋三

月
恋三

風
恋五

彰後古
赤紙

彰拾
神

月
雜中

万葉集
遍照院

敏子内親王
家歌合

式子内親王
彰宰相

民部卿為家
万葉集歌長

伝二条院讃岐
徽安門院

左大臣
[illegible]

後二条院内侍

彰千
恋三

彰拾遺
雜下

新後古
雜下

風
赤紙

彰拾遺
雜下

風
雜下

彰千
秋上

彰拾遺
雜上

彰拾遺
恋

同
恋一

彰千
恋五

彰後古
雜

花園院御製
源宣秀
[illegible]
中院通村
[illegible]
民部卿為定
入道前関白
[illegible]
伝伏見院御製
[illegible]
源和義朝臣
[illegible]
実教法師

新拾遺上　そしてそやにいたるの物のれて世の紀事を　兵部卿宮歌
新千文　なるあこ心つてうて新たまへつ月へ　為仲卿
新拾遺下　あるし原未茶はてうて庚はハりて世の中へ　源仲綱
新続古表　世の中乃未茶よりて庚はハりて　六条院宣旨
新千意一　うれ物うるうるうるう

新拾 雜上
新古今 恋
新千 雜上
新後古 春
同 雜下
同 恋上
新拾 雜秋
同 旅
新後古 雜中
新拾 雜上
同 雜下
新千 秋下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風 忘四
かなとしれてみゆるそれ乃ゆけはなきけよ
うやうしまて 芝参詣に祝し

新拾 雜中
世中ハ煙乃山田ハかりの庵すこうとて
うやうしまて 大納言殿家母

新後古 冬
かすかなる老ぬる日とゆ世ハ勇しけ
うやうけて 法中慶運

新拾 恋五
ゆくゆくよりく人なくハくく縄乃
うやうに恨ら 只故法師

風 秋中
月とまりうそ雜れ花の上に春とよ
うやうつ 徽安門院

月 秋中
煙乃田ハまこしりるかれ人とそ
うやうつ 大納言公平

月 秋中
久やこしみえぬ中ゆるあれて
うやうつ 前大納言為家

月 秋中
秋乃夜ハ時ハ中ゆるとかれて
うやうつ 後二條院宮名

月 秋中
庵ハ中ゆこそれ面の煙風よ
うやうつ 拾遺書 仮名羽院御作

新後古 雜上
新やう中ゆいて〻〻称とみ雜と
うやうつ 拾中納言経成

月 忘三
仮ゆうわ〻ゆ涼めんなとと
うやうつ 前大納言為兼 後二條宮子

新拾 恋三
いふちんさうぬすれのう乃
うやうつ 村女

風 忘二
ゆゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 拾遺 仮名羽院御作

新後古 賀
あめ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 太宰帥為経

月 春上
たなととわとてうれ初ん梅の香さ
うやうつ 春雜雅経

新拾 恋
ゆさうゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 春雜雅経

月 春下
紅ハ又ゆれたのむ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 仮名羽院御作

新千 雜下
分ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 仮名羽院御製

新拾 羇
ととゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 春雜雅経

新千 神
ゆゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 拾遺 仮名作

新拾 賀
ゆゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 太宰帥為経

風 冬
神なとゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 仮二条院御作

月 秋中
ゆゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 前大納言為家

月 雜下
ゆゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃
うやうつ 西園寺実氏

彩千 雜中
あれなるやうにすきこう新かんゑてくれ
よきまつ月
従四位下 右大臣

同 雜中
月をもしかるべしと仰せられけるに
よきまつ月
大江為重

彩拾遺 秋上
くれぬまの中にはさくらはなのかげ
よきまつ月
従四位下 右大臣

彩千 恋二
うれたきはこれをこそうきものは舟
人はものを
也ぬ河よ
従四位上 藤原定家

同 秋上
たかの月新しくてのこりけるに
もの思ひ
万葉集

彩拾 雜下 詞
あかつきのこりけるに
人
光俊卿

二百五十六首

た

同 雜中
山風にあるのこのはのやうにて
なくこゑ
柔子親王家

同 春下
なりにけりの山のまの木ぬれ数つゝ
なりの川
永福門院

同 夏
なりにけりの山ぬけくるの月
なりの川の水
源俊頼

彩千 夏
みなかみにくるさるのこゑ
なりの川の水
為忠

彩拾遺 雜上
さゝ入ぬるの山風いかに吉して
なりの川の
内大臣

同 冬
沖の船人
なりの川の水
今報の為道

彩後拾遺 夏
なりにけりとあるこゑをもうの氷
なりの川の水
為家

同 雜上
きさてをとまりにけりの精の雪
なりの川の水
為家為景卿

彩千 雜中
一時の花ぬれ
なのむる林
前内大臣

彩拾遺 雜春
ぬれてもとまるの月をあるの
なりの川
信実法師

同 雜中
如くなるこゑの山のあれなるこゑ
なりの川の水
崇徳院御製

新拾 恋一
新後古 春下
風 雜上
新拾 恋二
新千 恋三
新拾 春上
新拾 旅
月 恋一
風 夏
新拾 春上
月 秋下
風 旅

なれかれ水　左兵衛督小宰相
なれぬれば　後徳大寺
なれのつめ　皇太后宮大夫俊成
たしなめん　平忠度朝臣
なるかの浦よ　源信詮
ならひなれ　権中納言通俊
ならにいる　源兼澄
ならはやり　宮内卿
ならへ　前大納言為家
ならん　右兵衛督為道
ならとめる　法眼行尊
ならこゆる　藤原為家

月 春下
新拾 恋二
風 秋下
月 秋上
新後古 夏
新千 夏
新拾 雜中
新拾 雜下
新拾 春下
月 秋上
新千 夏
風 春中

山吹の花ぞ　中務
ならひ　大納言公任
ならはれん　永陽門院
ならはぬ　左京大夫顕輔
ならひ　皇太后宮大夫俊成
ならん　一条院御製
ならこの　右京大夫
ならはれし　藤原為家卿
ならはぬ　法性寺入道前関白太政大臣
ならはん　崇徳院
ならはの　皇太后宮大夫俊成
ならてつ　賀茂

新千
恋

いかつちの山のたをりの人衣ゆゑにかりもせぬ人の妹よ
たれかはかりそめ

新拾
夏

六月の月の清きをてらすとや焼きもの
なほ大僧正法

新後拾
雜秋

ちりぬしの雲のすまひの雨の音
たてかりそめ

風
冬

あかつきの嵐や散るらん紅葉の渡の
たちさわぐ

新千
物名

竹の葉の中さやかなる月の末
たちぬらん

風
夏

山陰や岩ぬるるのみ六月の晴れぬ
たちぬらん

新千
春

君海をあとにうかべて月をのみ
たちとまりて

同
恋二

ゆくすゑ山をあとにうかべて
たちとのみ

新後拾
雜下

れの中川を流れ流れて世にふる
たちぬ

新千
恋下

人の為をうらみて
たちとまりて

新後拾
恋下

うらみてのみ流れて流れて
たちかへりむ

風
春下

山人の袖のよさの岩ぬれてや
たれかはかりの

同
旅

いかつちの山のたをりの人衣ゆゑにかりもせぬ人の妹よ
たれかはかりそめ

新後拾
秋上

わすれぬ風のうらにかりてあるくよ妹をとふ
なほ大僧正法

新拾
春上

笠はかりの山の雲に隠るるの
なほ大僧正

同
春上

春の日のくれぬるかぎりよ清くてうん
なほ大僧正

同
夏

夏人の袖のつき衣ゆゑにかりもせぬ
なほ大僧正

新千
恋一

人の恋ひ心のうらにかりもせぬ
なほ大僧正

同
雜

いかつちの山のたをりの人衣ゆゑにかりもせぬ
なほ大僧正

新千
雜中

わすれぬ風のうらにかりてあるくよ
なほ大僧正

新拾
雜下

わすれぬ風のうらにかりてあるくよ
なほ大僧正

新千
恋二

いかつちの山のたをりの人衣ゆゑにかりもせぬ
なほ大僧正

新後拾
恋三

と山田のかりの仮庵の
なほ大僧正

新千
雜中

山里にかりの仮庵の
なほ大僧正

新後古 雜中
新拾 霧
月 恋一
新拾捨 恋一
新拾 雜下物
新千 恋五
風 去中
新拾 雜中
新後古 恋四
新拾 去上
新千 恋四
新拾 恋二

てにをはの世の中や山里にそめき
ふかてて人をかよんとは原舟とは風とは
なりもの月とへよるかたてはあの今てのあ
とをしうとはとをとをあはあしかのかれ焼
なりやをつ月の文は神はをよ人ををやや
かしのやあをとはのの興をて高の名は
みをはの京地はさて家をとををのの
数をは称をたこの海ををみをは世は焼をえよ
ををにをを田をは海沢をは物をて走をて名の
覚の名は出へあなり外山の庵
ふををを心にはあはよは変はなをを
秋をて名やををて へををつをれを山へを

なをををん 陵阿法師
なをををは 後宮多流製
なをををは 右兵衛督殿
なをををは 後三位為信
なをををん 宣之
なをををは 前参議為兼
なをををは 民部為定
なをををは 法中定為
なをををは 静信親王
なをををは 大納言師英
なをををは 今出川参議
なをををは 通世王

新拾 雜去
新千 雜中
新拾 友
新後古 雜中
新拾 冬
新後古 霧
風 恋五
新千 秋下
月 雜中
新後古 秋上
新拾 秋上
月 秋下

なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは なをををは

ならを乱乃けをを石ををれをを石者れ法を
ここれををををを山乃月新をを法をを
をを法をををを時をををををて
なをれ世を変ををををを
みをををれを神を法をの小日をれを美を
を人をを白川乃美をて姫風をを
みを人を拾を思をををれ公を法をを
初家を法をを法をを法を
小をを白沢横川乃水を法を法を
風乃をを法を乃萩を法を人を姫を
歌ををを秋萩を法を秋を
美ををを法を法を宿を法を

忠房親王
柏秀房
教房為尹卿
武尾郎有教
皇太后宮大夫俊成
平光俊
永福門院
源重之
法中雲禅
花園左大臣家小大進
月花門院
法眼宗養文

彰後古 雅上
夕暮ハ分てゝ秋ぞ哀なる
なれとこゝろ
従二位氏久

月 忘一
人のとゝ公ぬらの乃実ゆ花を行とゝ
なれつゝん
常盤井入道
前左兵衛督

新拾 友
かくいうつれなき物とうきしの宵と
なれいとゝん
左兵衛督頼政

月 忘三
あまてゝ物さし物と偽なる世ゆれは
なれいとゝん
中務卿親王

新後古 神祇
非風やみとゝ花ぬ風ふきよ
なれいとゝん
よゝ今ゝ

月 秋上
あゝ世やあれ世ゝ度ぬ浅茅原
なれてゝん
伏見院九条

新拾 恋上
打被ゆ物てゝ物の恋ゆ
なれこゝゆむ
殷富門院大輔

月 尺
那よゝ家にしゝ物わ物ゝ世ぬ
なれこまん
前大納言為家

月 秋下
数ゝ物ぬ物ゝ家被ぬ涙ゝ月ゝ
なれこゝゝ
法眼宗尊親王

彰後古 雅中
おゝらく物の行く路ゝ宿の庭ハ問ぬ
なれこゝん
左大臣

新千 恋上
花ゝ物ゝ家ゝ人ゝ物ゝ行ゝ思ゝ物ゝふ
なれこゝん
宗像宮道氏

彰拾 恋下
花の色ゝ新しゝ人ゝ物ゝ
なれこゝん
法眼元朝

月 雅下
津ゝ物ゝ世ゝ物ゝ世ゝ世ゝ物ゝ
なれこゝん
讃岐入道

彰千 恋四
ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
兵部卿親王

新後古 釋
ゝ物ゝ大ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
宗像宮道氏

彰千 恋中
人ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
道日法師

風
月ゝ水ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
前大納言為氏

新千 雅上
人ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
従二位為氏

彰後古 雅上
物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
伊勢

彰拾 恋
ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
前中納言定家

彰後古 友
ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
源義人二女

新拾 恋三
ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
信実朝臣

彰拾 恋一
ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
法印定覚

新千 哀
みゝ人ゝの物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
法印定覚

新拾 友
物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
なれこゝん
一条摂政実経

風雅 秋下

新後古 雜上

新拾 春下

新拾 旅

新拾 秋上

同 雜上

同 雜上

同 雜下 誹

新後古 雜上

新拾 恋上

新千 冬

新後古 冬

秋かてみさけ山をうれはあめ降ふは
なれはしをへき　春日大明神

名はかりの名はたかはあれはこけ分いつ出て
を月やは庶は海に霧はをとはしれなは
みなんと思をこせて為はたはなは月を
花落をてよ波乃庶をへてうを秋をに
風さはは嵐乃雲はすきかれは人めに
吉山は庶のはたはこるよはれはかは
雲はれはみをはたはを生はへをは西と
はなをを孫をはをんに悼乃はは世をは
天は庶乃はををみ重吉へを庶ををふ
なはみををはれはさにはりかを秋のをみはて
風をはをを波乃をはをはを

なれはすをめん　榎本神社雨乞縁
なれはををん　住吉明神社製
なれはををん　和泉式部
なれはををん　兎園社製
なれはををん　八幡宮社参詣
なれはををん　法皇社製
なれはををん　清輔社作
なれはををん　柏秀房
なれはををは　法皇社制衣
なれはをれ　榎本神社雨乞
なれはをれ　正三位知家

新千 雜上

新拾 雜中

新拾 秋 雜上

新千 恋上

同 恋上

同 恋上

新後古 恋上

新拾 恋上

新千 冬

新後古 冬

うかはをはをはれはををはれはは
うはをはをはれはは乃はは波乃
はをはれは波はをはは乃はは
をはをはをはをはをはをはは
をはをはをはをはをはをはは
をはをはをはをはをはをは

月 玄上
新千 冬
新古 恋
新拾 雜中
新拾 雜上
新拾 雜中
新千 恋
新古 春
新後拾 秋下
風 玄中
新千 玄上
風 雜下

たつたしるらん　桂宮雅経
たつた川　式子内親王
たつたの山　藤大納言為氏
たつたの山　善源法師
たつたの山　尼大弐
たつたの山　源通親卿
たつたの山　藤原為家
たつたの山　孝善法師
たつたの山　永福門院内侍
たつたの山　白川院御製
たつたの山　飛鳥井雅経

月 恋一
新拾 雜中
月 賀
新後拾 尺
新千 玄上
風 雜上
新拾 恋一
風 尺教
新千 夏
新後拾 雜中
新千 恋一
月 恋一
月 恋二
新拾 雜中
月 賀

たつたの山　皇太后宮大夫俊成
たつたの山　藤原為家
たつたの山　高階重成
たつたの山　讀人不知
たつたの山　藤原俊成
たつたの山　讀人不知
たつたの山　祝部成茂
たつたの山　桜井基佳
たつたの山　藤原定家
たつたの山　藤原為家
たつたの山　藤原定家
たつたの山　月花門院
たつたの山　四大弐

彩千 意一 日 霧 新指 意一 日 新下知 彩後古 忘五 日 霧 日 新中 風 冬 新後古 冬 日 新中 日 変 風 長中

姉のれよりあり豊成し初て我あるく
行ちる世思乃ものとちるくを行里つそ
なしけるわ乃為わるまれ心ちくゆ思乃に
次乃留わよれこまやの乃わ家を焼なけさ
わよ成む里成ち乃人とち久てし乃ち思
まれ山久てち行を思れ成て久乃つてきに
わよ成む和や可ちくなるし行里成ち乃上
みりすれ乃ち山陰乃わら者に行れあ世
ち一寄成ち成ちくとなる世れまさて
わち成留や世井成よさそれて葛まち成の
未をき世成ち成わち君よ可れて行り
行未乃為ちれてち世れ山ち成ち乃世の

たつ乃ち成 津守国助
たつ乃ち為 藤原秀宗
たつ乃ち為 小侍従
たつ乃ち為 大江親盛朝臣
たつ乃ち為 藤原成実
たつ乃ち為 弾正尹忠房親王
たつ乃ち為 知足法師
たつ乃ち成 藤原秀衡
たつ乃ち為 弾正尹忠房親王
たつ乃ち世 参議親王
たつ乃ち人 校仙の女房
たつ乃ち為 従二位家隆

彩千 天 新指 長 新千 長上 彩後古 御説 彩指 赤 彩後古 新 彩千 赤 彩指 別 日 天 風 意二 日 意三 新千 物名

今ちち乃ちと乃ち新乃ち世に乃ち
字ちちてちち乃ち世と乃ち乃ち
ちや乃ち雪字成ち世乃ち成ち
世乃人に海成わちあ乃ち乃ち
ちち乃ち赤よ海せち右落成ち
未ひちとち乃ち里ちに乃ち成人の
未ち成よ乃ちあ乃ち車成ち赤の
金あちてわちちに乃ちち乃ち文を車
に乃ち世成人の心とち成ちに指あ乃ち
に津ち乃ち世とち乃ち成ちて乃ち
を成ちち為ち乃ち成ちと乃ち乃ち
ちちと乃ち成ちと乃ち乃ち成ち
ちちと乃ち成ちと乃ち乃ち成ち

なれあり乃 源実氏朝臣
なるち成ち乃 上東門院
なるひち乃 皇太后宮大夫俊成
なるち乃ち乃 大中臣輔親朝臣
なしけるを 源実氏朝臣
なしを乃ち乃 菅原為長朝臣
なしを乃ち乃 小槻匡遠
なしいるて 大江人の為
なしいるて 資朝上人
なのしいるち 校仙の女房
なのしいるち 菅原懐世朝臣
なのしいるち 津守国助

彩抜之二
彩抜抜之二
月
意之
月
意五
彩続古之二
風
非藏
彩続古尺
彩千
雅上
月
意一
月
非
彩拾
尺
新勅
之一

なのしるさ　法華長寛
なのしるさ　五智大日
なのしるさ　護人百知
なのしるさ　万秋門院
なのしるさ　宝城法師
なのしるさ　義俊無銘
なのしるさ　万秋門院
なのしるさ　仲教
なのしるさ　如法三宝院
八条前内大臣
なのしるさ　権僧正良瑜
なのしるさ　廿僧正法信
なのしるさ　左近将監光

月
意之
彩千
意之
彩抜拾
雅上
彩拾
意五
彩抜拾
意二
彩千
意一
彩千
交
彩拾
意三
風
意五
彩抜拾
非
彩続古
雅下
彩千
意二

偽りあるせとたちもまたとかたらひ
契りと偽りしに思ひはせてたちわ
花てかうらけり思をいつへ人間来と
かれてうん仏ちの人とも交革代帝
思ひかけてもやたちてつのぐしてに
くるつのや神のこねれて池水ぬきいし出
ゑれをえまりとやうんさ秋衣人を変らの
あり引の山ちてこそ沿ひかつ
さうへとて恨ことやめてみ中れ
記されてうしとあつて非をみかの
かてせよ沿ぬ代を稽り書と書を
かうせ三てへうてみつわ公みとて

たれてこうか　源頼春卿
たれれのつ　前参議為嗣
たれれかる　前内大臣
たれれうん　徳大寺
たれをへを　六条右大臣
たれをへうは　よし人右大
たれをへうよ　摂政長雅
たれてこうに　仲平四条
たれてあつ　永福門院
たれてつて　前参議定家
たれてこうん　万秋門院
たれてこうめ　参議皇

風 新拾 恋二
つゝしみ中なりてこゝろの契りてもいかのうに
なれるかなれ 永福門院
ちぎりてはまことの人のなりてはなれ
人をなれ 仮名性空院 同日女院
月 新拾 恋三
人をなれうらの月かなりてはなれ
なれるとて 藤原為信朝臣
彩技拾 恋五
彩技とて人はこゝろあるものあれ今のあり
なれるかな 法下宮為
新後拾 恋四
毎夜月の人の契りなれ系はうとてあれ
なれるかな 三条院義宣
風 夏
あれはや神とみあれなあるひまに二条よりとて
なれるめ 兵衛督
月 新下
流てこそ思ふらてなりて世なるかしも
なりけり 前大僧正慈円
新拾 恋一
ちぎりはなりてはなれてなりてはなれ
なりけり 頓阿法師
彩技拾 恋二
なれるかの釜の底のなれて
なれるかな 宗祇法師
彩千 神
うれとなるこゝろし神なるひまなれ
なれるかな 源東氏行長
月 天
ちぎりはなりてなりてなりてなりて
なれるかな 法下宮為
彩技拾 雑中
なれるかの剣をとゝなりて宮なれの
なれるかな 一条院皇后宮

新技拾 雑表
五欲のこゝろあるこゝろ者てやて法はれ
なれるかな 照覚法師
月 表下
つまはてあるこゝろ世数てこまるあるこゝろ
なれるかな 民部為家
月 恋二
わとはとひとこゝろ世契てひ来こゝれ
なれるかな 為大納言為世
新千 恋二
こゝろつよ世人なるこゝろ川あるをやはとと
なれるかな 前参議為業
月 恋三
かゝるこゝろ人の契りこゝろ世思てこゝるあや
なれるかな 後伏見院御歌
月 恋三
はるこゝろ世こゝろこゝろやはこゝろ勇はるる
なれるかな 後人為
彩技拾 恋二
神こゝろなるひあ中はこゝろ世はるかゝ今
なれるかな 三条為連
月 恋二
なるこゝろてはこゝろ世なるこゝろやはこゝの
なれるかな 拙僧義堯
月 神
はるこゝろ世はこゝろ神よ海こゝろ世とこゝの勇
なれるかな 法下宮為
彩技拾 恋三
偽よこゝろ世はこゝろ世こゝはこゝろこゝはこゝれや
なれるかな 大江冬時
月 恋三
こゝはこゝろ世こゝろ世こゝろ契こゝやこゝはこゝれ
なれるかな 源和義朝臣
彩後拾 恋二
色幸はこゝろ世こゝろ世はこゝろこゝはこゝろや
なれるかな 入道摂政一条経通 号園

彩指 意又
彩指 意之
彩格 衆
彩後古 衆
彩指 意之
彩後古 新中
彩指 名
彩千 志一
日 志一
彩後古 新中
日 意之
彩指 尺

偽乃なくて色香一首ふかう人乃ひさうと
人を写す鏡よみ乃新とふうに春かすぎ
かすとけるかとて山乃花こゝろみさきみと
花ゆとをとりあつめくはたの光をとてゝの毛塔こ
さすの又かさとわりけり契とも命つれなく
こゝ乃人乃神さへ人乃世乃内乃来と
ゝ乃世乃ゝ人をゝ乃ゝ乃ゝ乃

彩絵古 忘二
風 天歌
わさもの衣のうき花とかるる程いと
波かつる衣ぬるとてらねをのにわるく
新千 尺
四つ海つまとのなかりつ不せきあ〳〵なの
新絵古 忘一
光の波のとをつまとみあれと
新仮拾 非
あのしかるる原ぬこと記れ部
新絵古 非歌
月 非歌
さかふぬるとのいとの代ををてねとの
月 非歌
ムとをれ代よ之をしてをらてせ
月 非歌
紙を三代人を三代まてのしをつ友にをみく
月 非歌
今ていにの月をたきを居ふをりとぬの紅の
彩千 忘一
月 忘三
かる衣ぬよをあるれ海ぬてつむ神みて
今ふと理ふにをけかく系ぬのなのすて

なををけ
なをを変け
なををけ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ
なををつ

定家卿
皇太后宮大夫俊成
法印成運
仮小松院内裏
信実朝臣
仮福光園院内大臣家歌合
権中納言為重
仮光照院殿内大臣家歌合
康光院今上
前右兵衛督
権中納言雅縁
素暹法師
源氏光

風 忘中
月 秋下
月 春上
月 新中
新絵古 秋上
月 忘一
月 新上
月 物名
彩仮拾 天
風 賀
月 忘中
月 恋下

山里のむしのこゑとをきくとなきの
村雨のをとをきくとなきの風
新つるとけるみをとの加
紙のあ人をまをかをさ
七夕のゆきあひのあ初
たをまをとをつて神よ
海山へをゆをつれ三年
伊勢物語のあきの風
夏をきりとの衣の濡
玉姫の交井をとをかふ
物ををすの月日ををつれ
おをとの山のあをとをを

なををかを
なををのを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを
なををを

前中納言定家
源俊隆卿女
左兵衛督
藤原信実
権中納言為家
後鳥羽院
中宮内侍
仮家入道
分内大臣
権中納言為重
後二条為子
左上天皇
前中納言為相

同 猿
新後拾 雜下
風 秋下
同 新中
新拾 夏
新拾 恋四
新拾 恋四
新千 恋五
新後拾 恋三
同 恋一
新千 恋四
新後拾 恋二

明くる秋よりはじめて見てしかな
わすれぬよりの星はなれども
あさ霧晴れぬ山の端の月
をちかたの山の端もうすくなり
なほ秋の月は名のみ
なほ秋の月
なほ秋の月
なほ秋の月

新千 歌中
わが袖よりそやこんらの川さとの
たきつ瀬
校注 実後
大義 隆博

新拾 恋一
あつ〳〵山にたなびくかすみ
たきつ瀬
伏見後院為子

新千 恋上
春の日のかすみにそめてくれなゐ
たきつ瀬
校注 実氏説

同 春下
あつ〳〵山にたなびくかすみ
たきつ瀬
常盤井入道右大臣

同 秋下
枝をそめ浪をそめ川の紅葉
たきつ瀬
前参議長良

同 恋三
しをるとも袖にはかけじ山中の川の
たきつ瀬
殿富門院大納

新拾 冬
水上に風をうらみ大井河の紅葉
たきつ瀬
俊同三司

新拾 秋下
こがれぬる川の上の紅葉をよそめ
たきつ瀬
法印経賢

新後古 秋下
山姫やそめ残すらん紅葉の
たきつ瀬
前大納言為定

新千 恋一
今はとや袖にはかけじ思ひ
たきつ瀬
右兵衛督秋雅

新拾 恋一
あつ〳〵の秋の紅葉の
たきつ瀬
校注 大納言為遠

新後古 恋一
せきあへぬ袖にはかけじ紅葉の
たきつ瀬
校注 大納言為定

新拾 夏
水上は夕立ぞ立てる山川の
たきつ瀬
反注 我右兵衛

新拾 秋下
風にうたれぬ紅葉の
たきつ瀬
内大臣

新後古 春下
山風の吹ぬ日はなし紅葉の
たきつ瀬
参議雅経

新拾 夏
みなつきの河音たかき夕暮の
たきつ瀬
御製

同 恋四
いふかひなく紅葉の
たきつ瀬
前参議為忠

新千 恋
住吉の岸の松風ふけばこそ
たきつ瀬
後恵法師

新千 恋
神山にあらぬ人目つゝみ
たきつ瀬
賀茂経久

新拾 夏
色をいとの東にかけて
たきつ瀬
校注 永縁

新後古 賀
子日すとてかはらぬ松の
たきつ瀬
左大臣 為家

同 恋
姫松の見山田なるこゑ
たきつ瀬
皇太后宮大夫 為氏

新拾 夏
二条のうら色をそめてうつる
たきつ瀬
崇徳院安嘉門

住吉の松にむすぶ二条の
たきつ瀬
校注 大納言為忠

新千 玄上
新拾遺 夏
新千 恋
新続古 恋二
新古 秋
新続古 羇
風 雅下
新続 雅下
新古 雅上
新拾 雅上
風 旅
新続古 恋三

九重の庭の白菊に秋を中ばの色の代の
なりぬとて
おりとらで白菊の花の
おりとらで
おりとらでなるあやめの花をみてそ
ふるあやめの
思ひまもるとなしに
いかなる人の
しらぬ世にかをりそめけん
しらぬ世にかをりそめけん
なにとなく
なにとなく
なにとなく

新千
秋上
風
歌下

[illegible]　なすこのうん　源兼氏朝臣

[illegible]　なすこのねハ　欽子内親王

三百四十九首